

JP1/Integrated Management -
Central Information Master
システム構築・運用ガイド ①

JP1 Version 8

JP1 Version 8	1
1.2.1 JP1/IM – CM の特長	3
1.2.2 JP1/IM – CM の機能.....	5
1.3.1 JP1/IM – CM の製品構成	8
1.3.2 JP1/IM – CM のシステム構成.....	9
1.3.3 前提 OS および前提プログラム	10
2.1 システム構成の定義	11
2.2 定義した構成情報の活用	16
2.3 システム構成の定義の流れ	16
3.1.1 論理構成例と論理システムの階層イメージ	17
3.1.2 構成情報の定義方法	19
3.1.3 論理システムの定義	21
3.1.4 論理グループの定義	25
3.1.5 論理サーバの定義	31
3.1.6 プロセスの定義	43
3.1.7 仮想ホストの定義.....	47
3.2 物理構成の定義.....	51
3.2.1 リソースプールの定義.....	53
3.2.2 リソースパックの定義.....	61
3.2.3 ソフトウェアの定義	66
3.2.4 物理構成定義時の注意事項	69
3.3.1 論理システムとリソースパックの割り当て	72
3.3.2 論理オブジェクトと物理リソースの割り当て	74
3.4 構成情報の収集.....	79
4.1 構成情報の検索.....	83
4.1.1 検索条件の指定方法	84
4.2 構成情報のインポート・エクスポート.....	87
4.2.1 構成情報のエクスポート.....	88
4.2.2 構成情報のインポート.....	89
4.2.3 Cosminexus Smart Composer 用ファイル	90
4.3 Link & Launch 機能.....	93
4.4 監視ツリーの生成	94
5.1.1 ユーザー認証	95
5.1.2 アクセス制御	97
5.1.3 ユーザーマッピング	101

1.2.1 JP1/IM – CM の特長

JP1/IM – CM の特長について説明します。JP1/IM – CM には、次に示す三つの特長があります。

- 1) ユーザー特有の言葉による業務システムの運用管理
- 2) システム構成情報の一元管理
- 3) JP1/AJS2 – SO との連携による業務システムの構築

(1) ユーザー特有の言葉による業務システムの運用管理

JP1/IM – CM は、業務システムをユーザーが使用する言葉やグループ名称を使用してグルーピングできます。例えば、「旅費精算システム」、「インターネットショッピングシステム」など、業務に関連する名称を使ったり、「Web・AP サーバ群のグループ」、「Windows を搭載したサーバグループ」など、ユーザーの管理しやすい形にグルーピングしたりできるため、わかりやすく運用管理できるようになります。

(2) システム構成情報の一元管理

システム構成に関する情報を、物理的な構成(マシン、ネットワーク主体)と、論理的な構成(業務システム主体)に分けて定義し、それぞれをマッピングすることができます。システム構成情報を一元管理できるため、例えば、あるサーバで障害が発生した場合など、どの業務に影響があるのか、などがすぐに確認できるようになります。

(3) JP1/AJS2 – SO との連携による業務システムの構築

JP1/AJS2 – SO との連携によって業務システム管理者のシステム定義・構築・運用に掛かる時間を軽減できます。

JP1/IM – CM で定義した業務システムに対して、適用できるシナリオテンプレートをあらかじめ定義できます。また、いったん定義したあとは、シナリオの登録や実行が容易にできます。

JP1/IM – CM で管理するシステム構成情報を JP1/AJS2 – SO から参照することにより、シナリオテンプレート内の未確定要素(シナリオの実行対象マシン、実行先ミドルウェアに渡すコマンドオプションなど)を自動的に解決します。その結果、手入力での負荷を軽減できます。

また、システム構成情報を参照するシナリオは、JP1/AJS2 – SO に同梱されている JP1/IM – CM のシナリオテンプレートを用いて、JP1/AJS2 – SO View で定義できます。

JP1/IM – CM で定義したシステム構成内のグループに属するすべてのオブジェクトに対して、同じ処理を繰り返して実行するシナリオを定義できます。

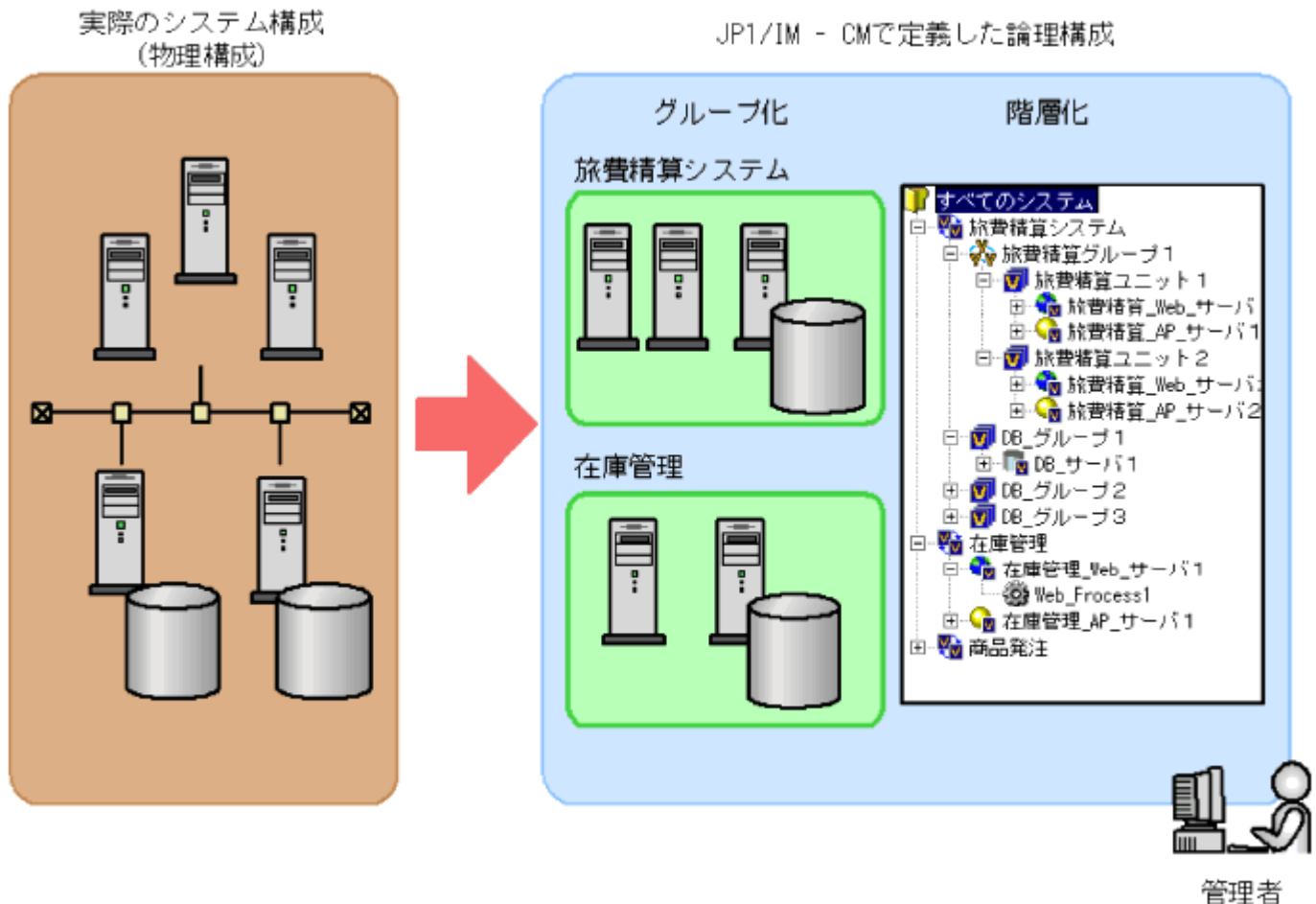
例えば、グループ内のすべての AP サーバに対して、順次パッチを適用していくシナリオを定義することで、システム構成の変更によりグループ内の AP サーバの台数が増減した場合でも、シナリオテンプレートを変更することなく、過不足のないパッチの適用ができます。

このように、JP1/IM - CM と JP1/AJS2 - SO との連携によって、管理者は物理的なシステム構成を意識する必要がなく、業務の視点でグループ化または階層化した論理的な情報を基に、シナリオを定義できます。これにより、物理的なシステム構成の変更に煩わされることのないシステム運用ができます。シナリオの作成手順や運用方法などについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation」を参照してください。

1.2.2 JP1/IM - CM の機能

JP1/IM - CM は、業務システムをユーザーの視点で運用管理することを目的として、**システム構成を定義**する機能と、定義した**構成情報を活用**するための機能を提供します。

ハードウェア情報を業務システム単位でグルーピングし、さらに階層表示することで、必要な情報をシステム管理者が管理しやすい形で利用できます。



次に、JP1/IM - CM が提供する機能について説明します。

システム構成定義機能

システム構成定義機能には次に示す三つの定義機能があります。

論理構成定義機能

業務システムを、ユーザーの視点で運用できるようにします。

ユーザーが実際に使用する言葉を使ったり、業務システムごとにグルーピングしたりできます。

これまで紙面やツールで個別に管理していたシステム構成情報(方式設計図, IP アドレス管理表など)を一元的に管理できます。

物理構成定義機能

システムで使用するサーバやロードバランサなどの物理リソースの情報を管理します。サーバやストレージ

などの各種物理リソースに関する情報を集約して管理することで、ITリソース利用状況や割り当て状況を一元的に管理できます。

マッピング定義機能

論理構成と物理構成を対応づけることができます。マッピングを定義すると、システムを論理構成で管理できるため、サーバの入れ替えなど物理構成の変化に柔軟に対応できるようになります。

情報収集機能

連携するプログラムから、論理構成情報や物理構成情報を自動的に収集できます。複雑または大規模なシステム構成情報を容易に収集したり、定義したりできます。次に、情報の収集で連携するプログラムを示します。

- JP1/SC/Control Manager
- Cosminexus
- JP1/NETM/AIM
- HiRDB
- JP1/Cm2/NC - Manager

構成情報検索機能

定義済みのシステム構成情報を、外部から参照できます。

IPアドレスやホスト名ではなく、例えば「旅費精算システムの AP サーバ」というユーザーの視点のキーワードで情報を検索できます。

ユーザー管理機能

システム構成情報のアクセス制御、ログインユーザーのチェックなどができます。また、インフラ管理者、業務システム構築者、およびシステム管理者ごとにシステム構成情報へのアクセスがチェックできます。ユーザー管理には、JP1/Base の機能を使用します。

構成情報のインポート・エクスポート機能

システム構成情報を XML 形式のファイルにエクスポートできます。またエクスポートしたファイルをインポートできます。システム構成情報のバックアップ・リストアや、一括定義などに使用できます。

エクスポートした XML 形式ファイルは、表作成ツールなどで参照したり、印刷したりできます。手作業で行っていたシステム構成図の作成と、メンテナンス作業の手間を大幅に軽減できます。

Link & Launch 機能

物理リソースを管理するプログラムを、シングルサインオンで起動できます。シングルサインオンとは、JP1/IM - View でのユーザー認証が成功していれば、連携プログラムのログイン画面を経由しないで目的の画面が表示されることです。

この機能を使用して、JP1/IM - CM から、プラットフォーム、ハードウェアの初期設定、インストールソフトウェアの確認ができます。

次に Link & Launch 機能で連携するプログラムを示します。

- JP1/SC/Control Manager
- JP1/AJS2 - SO View
- JP1/Cm2/NC - View
- JP1/NETM/AIM
- HPvM
- JP1/Cm2/NNM

1.3.1 JP1/IM – CM の製品構成

JP1/IM – CM を使用したシステムは、次に示す製品で構成されます。

JP1/IM – CM

システム構成に関する情報を管理する機能を提供します。

JP1/IM – Manager

システムの運用管理を支援する機能を提供します。この製品は、次に示す二つのコンポーネントから構成されています。

- **JP1/IM – CC (統合コンソール)**

システム全体を JP1 イベントによって集中監視し、システムで発生した事象の監視から、問題の検知、調査、対策までの一連のサイクルを管理します。

- **JP1/IM – CS (統合スコープ)**

管理者の目的に合わせた目的指向型のシステム監視を実現します。

このマニュアルでは、JP1/IM – Manager について説明する場合、コンポーネント名を使用することもあります。

JP1/IM – View

次に示す四つの GUI 画面を提供します。

- セントラルコンソール・ビューアー (統合コンソールの GUI 画面)
- セントラルスコープ・ビューアー (統合スコープの GUI 画面)
- セントラルインフォメーションマスター・ビューアー (システム情報管理の GUI 画面)
- ルールマネージャー・ビューアー (ルール管理の GUI 画面)

JP1/IM – CM では、セントラルインフォメーションマスター・ビューアーを使用して、システム情報の定義および操作を行います。

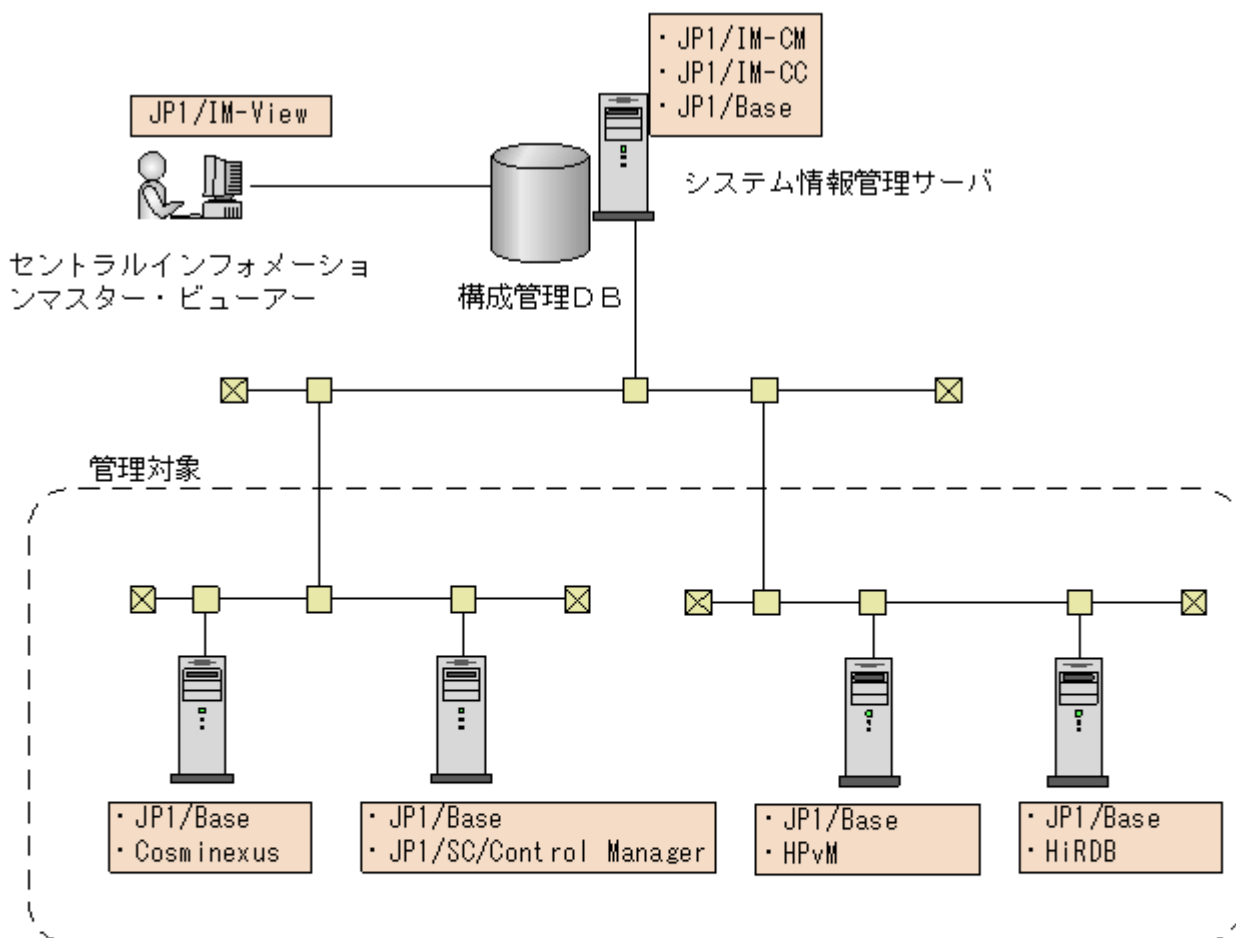
JP1/Base

JP1/IM – Manager および JP1/IM – CM のエージェントとなる製品です。JP1/IM – CM の前提プログラムです。

1.3.2 JP1/IM - CM のシステム構成

JP1/IM - CM の基本構成例を、次の図に示します。

図 1-7 JP1/IM - CM のシステム構成例



(凡例)

JP1/IM-CM : JP1/Integrated Management - Central Information Master

JP1/IM-CC : JP1/Integrated Management - Manager (統合コンソール)

Cosminexus : Cosminexus Management Server

JP1/SC/Control Manager : JP1/ServerConductor/Control Manager

HPvM : JP1/HiCommand Provisioning Manager

HiRDB : HiRDB Control Manager - Server

JP1/IM - CM のシステムの最小構成は、JP1/IM - CM と前提製品である JP1/Base, JP1/IM - View が同一マシンにインストールされた状態です。

次に、システムの最大構成を示します。

項目	管理対象の最大値
1 台の JP1/IM - CM が管理製品 (サーバ, ネットワーク, ストレージ, ミドルウェアなど) として管理できる対象数	1,024
1 台の JP1/IM - CM が持つセッション数	64

1.3.3 前提 OS および前提プログラム

JP1/IM - CM の前提 OS および JP1/IM - CM の前提プログラムについて説明します。

(1) JP1/IM - CM の前提 OS

JP1/IM - CM および JP1/IM - View の前提 OS を示します。

JP1/IM - CM の前提 OS

- Windows Server 2003, Enterprise Edition
- Windows Server 2003, Standard Edition

JP1/IM - View の前提 OS

- Windows Server 2003, Enterprise Edition
- Windows Server 2003, Standard Edition
- Windows Vista[※]
- Windows XP Professional

注※ Windows Vista 版の JP1/IM - View では、JIS コード第 3 水準および第 4 水準の文字はサポートしていません。JP1/IM - View 上、および定義ファイルでこれらの文字を使用した場合は、文字化けが発生して正しく動作しないおそれがあります。

(a) JP1/IM - CM の前提プログラム

JP1/IM - CM の前提プログラムを示します。

- JP1/Base
- JP1/IM - Manager

2.1 システム構成の定義

この節では、JP1/IM - CM のシステム構成の定義について説明します。

システム構成の定義は、これから新規に構築するシステムを定義したり、業務システムのシステム構成情報を定義したりします。具体的には、次に示す3段階の定義機能を使用して、SE やシステム構築者がシステムを構築する際に、紙面や個別ツールによる設計図や方式設計書などで作成・管理していたシステムの論理上の構成情報を、JP1/IM - CM 上で定義できます。

1. 論理構成の定義
2. 物理構成の定義
3. マッピング定義

次に、論理構成の定義、物理構成の定義、およびマッピング定義の関係を図に示します。

図 2-1 システム構成の定義機能

論理構成

×××システム

ロードバランシンググループ

Webサーバ

APサーバ

Webサーバ

APサーバ

DBサーバ

バッチ処理
サーバ

マッピング
情報

論理情報


物理情報

JP1/IM - CM

マッピング定義

物理構成

(凡例)

 : マッピング

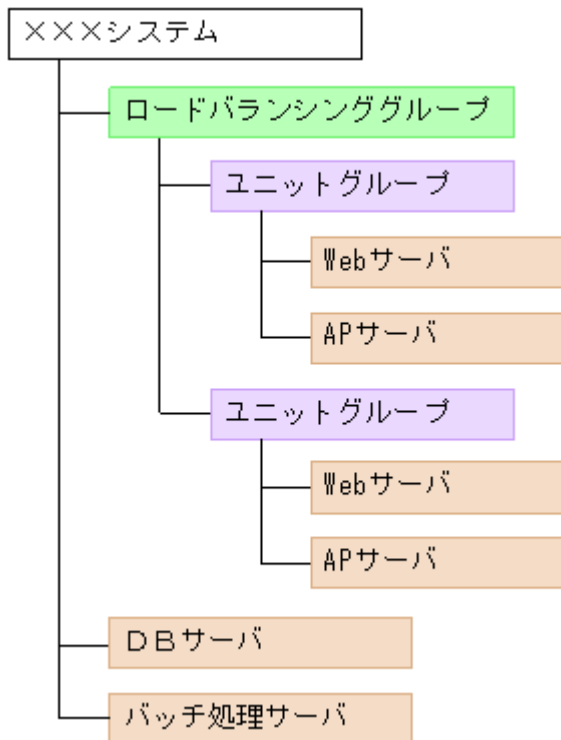
次にシステム構成の定義の流れについて説明します。

(1) 論理構成の定義

業務システムの論理的な構成を定義します。業務システムの構築者または運用管理者は、ユーザーの視点で論理的なシステムの構成を定義します。

汎用的な論理オブジェクト(Web サーバ、AP サーバ、DB サーバなど)の定義と、それらをサブシステムやユーザーの意図する単位のグループとして定義します。

例えば、図 2-1 の論理情報(×××システム)は次のように論理構成を定義します。



論理構成の定義は、次に示す方法で定義します。

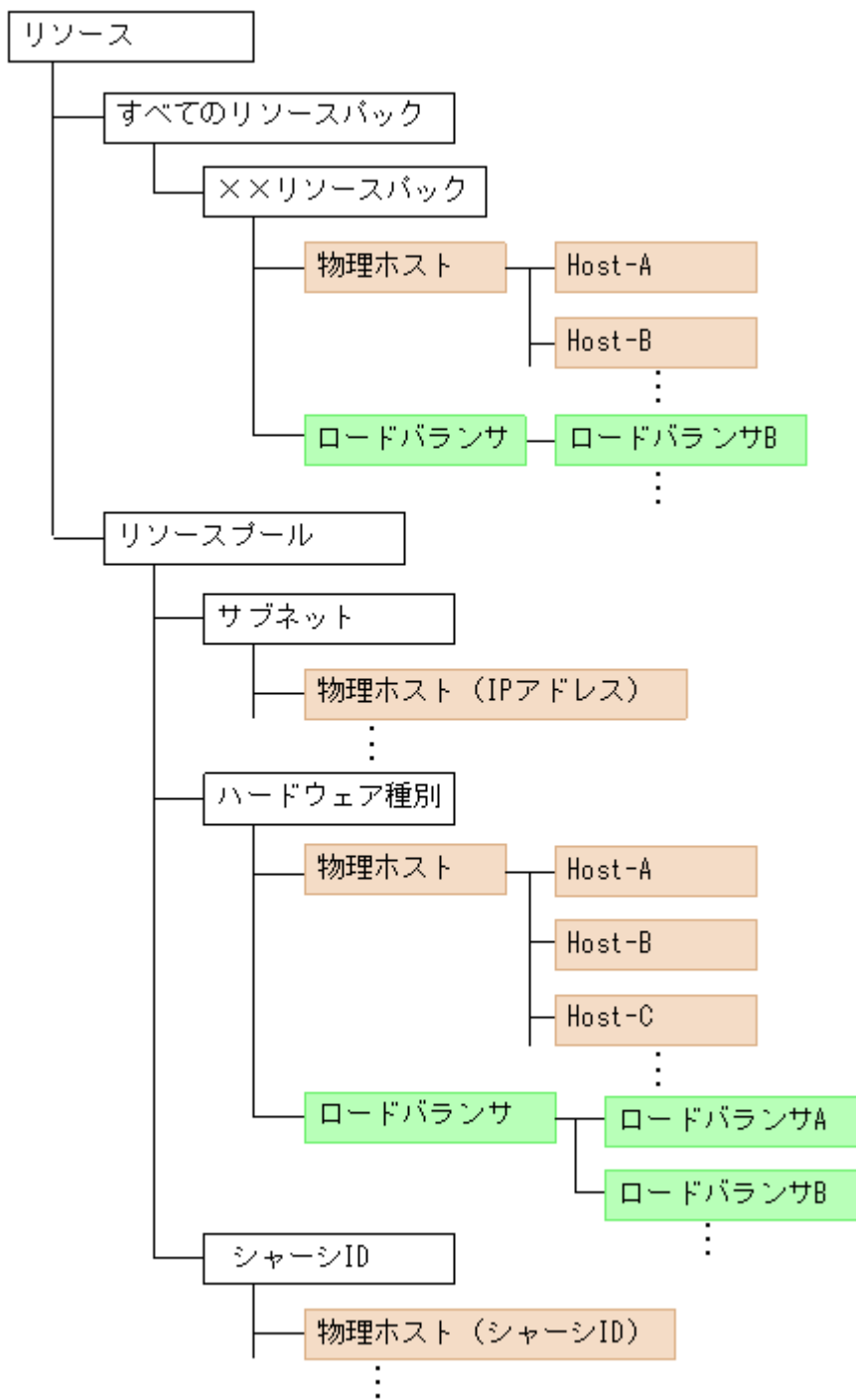
- 連携するプログラムから論理構成情報を取得する
連携するプログラムからシステム構成情報を取得して論理構成を定義できます。
- GUI で定義する
JP1/IM - View のシステム構成定義画面(セントラルインフォメーションマスター・ビューアー)から表示される GUI に情報を入力しながら論理構成を定義できます。
- 定義ファイルをインポートして定義する
JP1/IM - CM が提供するインポート・エクスポート機能を使用して論理構成を定義できます。

(2) 物理構成の定義

物理リソースを管理しているソフトウェアから、サーバやストレージの情報を収集したり、収集した物理リソースから業務で使用する物理リソースをグループとして定義したりします。

JP1/IM - CM が管理する物理リソースは、まず**リソースプール**と呼ばれるグループに登録されます。リソースプールから、**リソースパック**と呼ばれるユーザーが作成したグループに割り当てられます。業務システム単位にリソースパックを作成して物理リソースを割り当てていくと、わかりやすく管理でき、論理構成とのマッピングも容易になります。

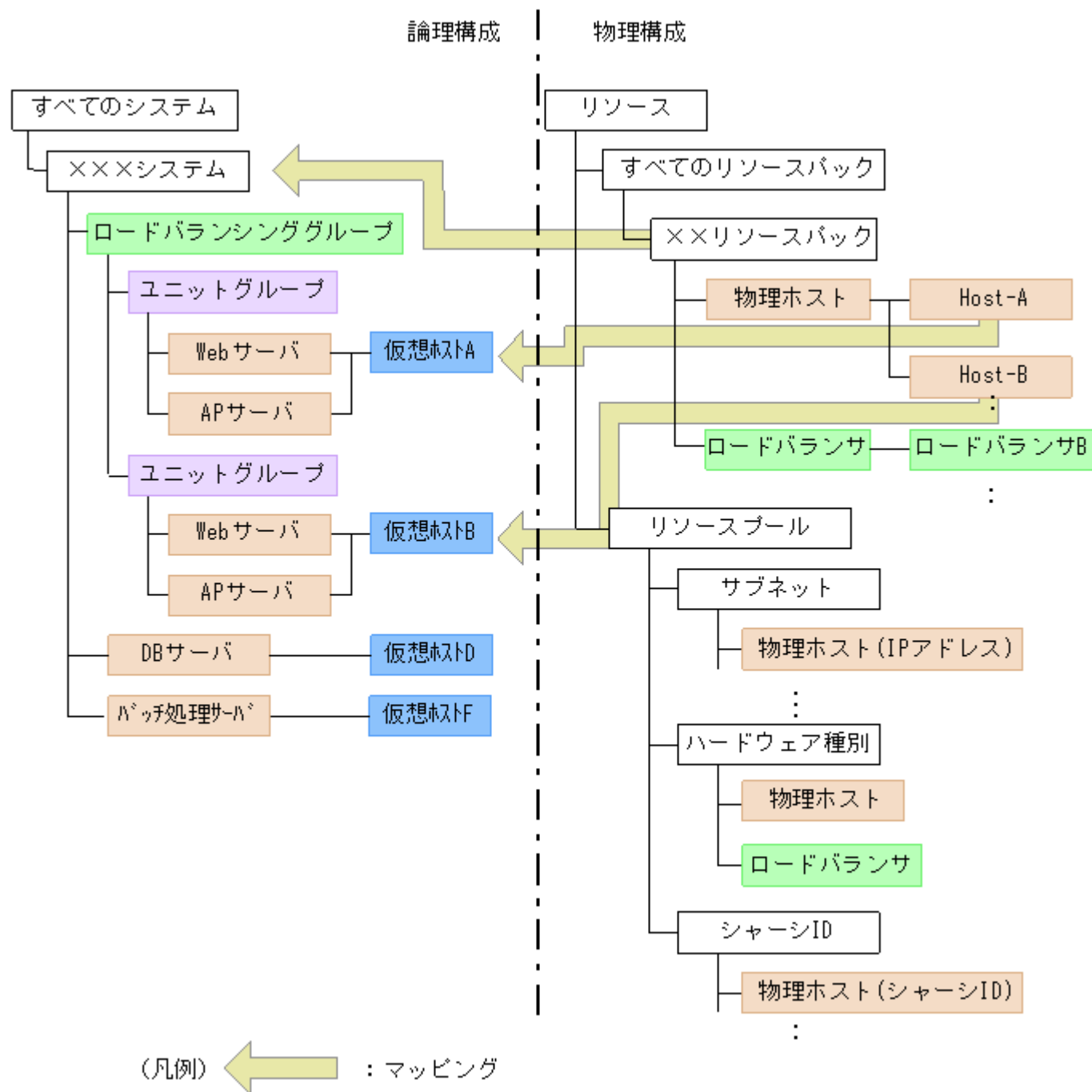
例えば, 図 2-1 の物理情報は次のように物理構成を定義します。



(3) マッピング定義

マッピング定義では、論理構成で定義した論理オブジェクトと、物理リソースとの対応を関連づけます。

図 2-1 の論理構成と物理構成のマッピング定義例を次に示します。



2.2 定義した構成情報の活用

定義したシステム構成情報は、システムの生成や運用などで活用できます。

(1) システムの生成

JP1/IM - CM から、サーバ、ストレージなど物理リソースを管理するプログラムを起動し、各種設定を行うことができます。

また、JP1/IM - CM で定義したシステム構成情報の定義を、Cosminexus Smart Composer に渡すことで、Cosminexus の設定ができます。複雑な Cosminexus の設定ファイルを手作業で記述する必要がなくなり、煩雑だった Cosminexus のサーバ設定が容易に行えます。

(2) 運用・操作

定義したシステム構成情報に、JP1/AJS2 - SO のシナリオテンプレートをあらかじめ関連づけておくことで、サーバの負荷増大に対して自動的にサーバを追加したり、システムの構成情報の問い合わせを自動的に収集・反映したりできます。管理者は、物理的なシステム構成に依存しないでシステムを運用管理できます。

2.3 システム構成の定義の流れ

基本的なシステム構成定義の流れを次に示します。

1. 構成情報収集コマンドを使用して物理リソースの情報を収集する。

JP1/SC/Control Manager, JP1/NETM/AIM, JP1/Cm2/NC などの情報を収集します。
構成情報収集コマンドについては、「3.4 構成情報の収集」を参照してください。

2. JP1/IM - View のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーを使用して、論理システムを作成する。

論理システムの定義については、「3.1 論理構成の定義」を参照してください。

3. リソースパックを作成し、物理リソースを割り当てる。

リソースパックの定義や物理ホストの割り当てについては、「3.2.2 リソースパックの定義」を参照してください。

4. 論理システムにリソースパックを割り当てる。

論理システムとリソースパックの割り当てについては、「3.3.1 論理システムとリソースパックの割り当て」を参照してください。

5. 仮想ホストと物理リソースのマッピングを定義する。

仮想ホストと物理リソースの割り当てについては、「3.3.2 論理オブジェクトと物理リソースの割り当て」を参照してください。

システム構成を定義する例として、Cosminexus が推奨する Web システムの構成を定義する手順と操作を「12. システム構成を定義する」で説明しています。

3.1.1 論理構成例と論理システムの階層イメージ

論理構成の定義機能を説明する前に、論理構成の構成例と階層イメージを次に示します。論理構成の例として図 3-1 に示すような業務システム(インターネットショッピングシステム)で説明します。

図 3-1 インターネットショッピングシステムの概要

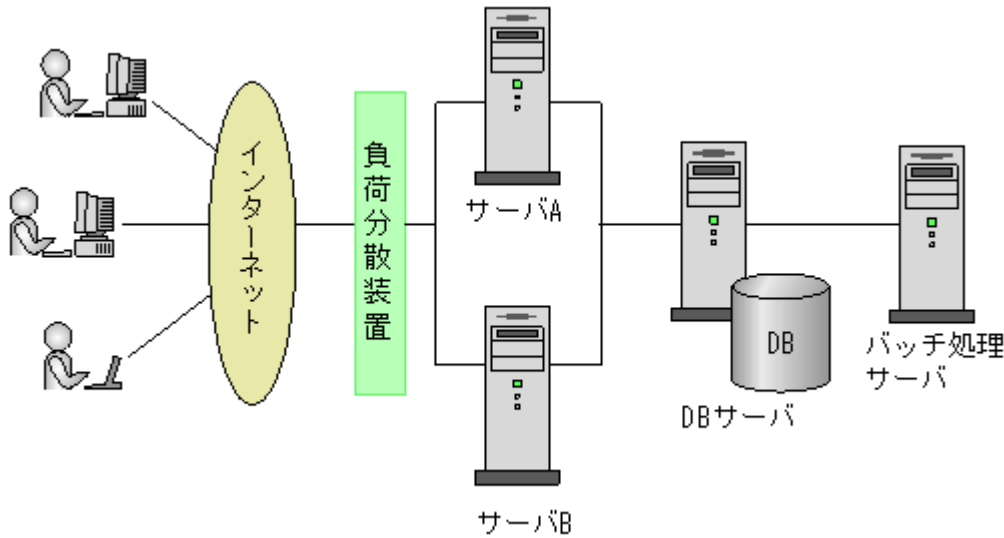
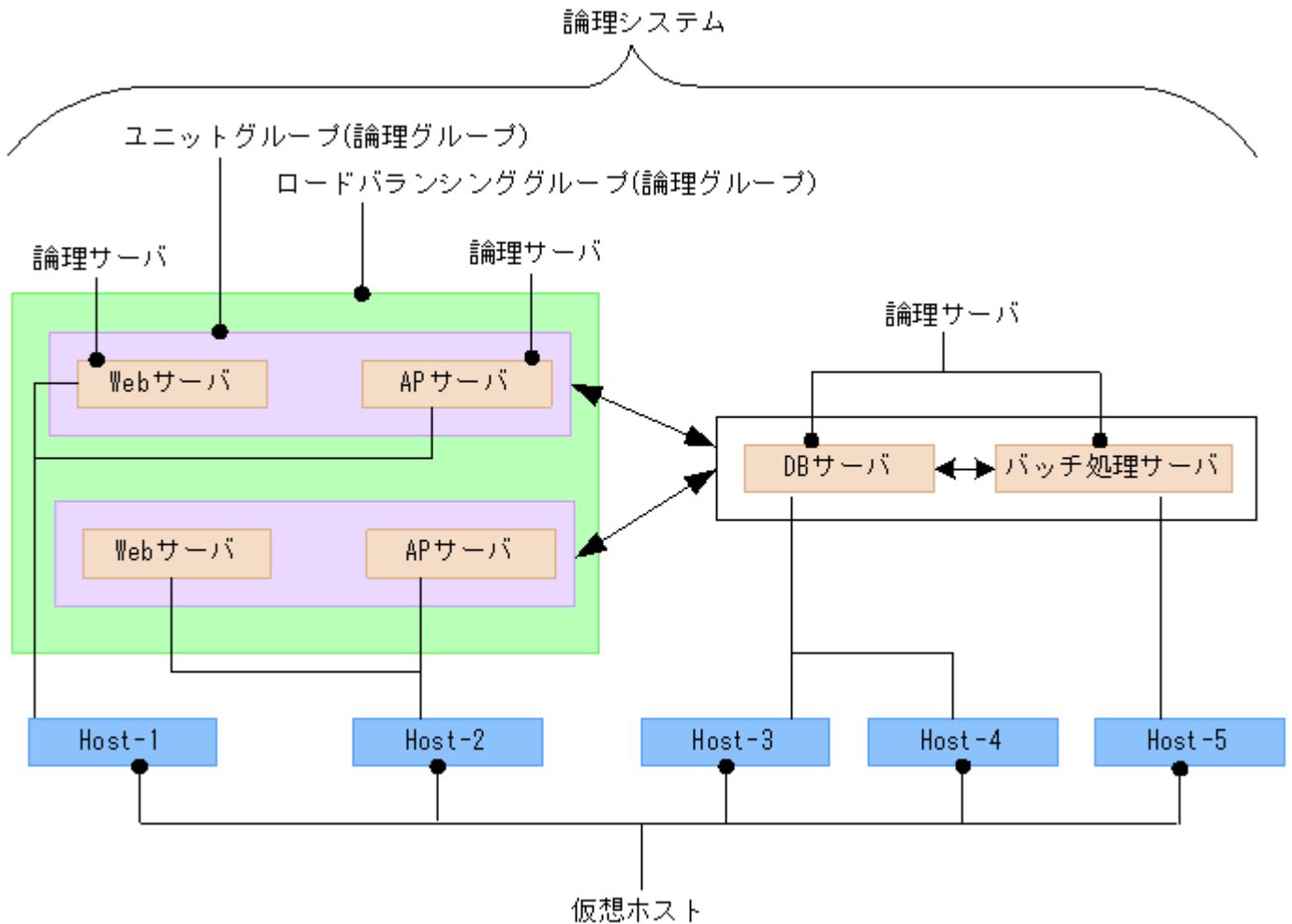


図 3-1 のシステムを論理構成で定義した例を次の図に示します。

図 3-2 インターネットショッピングシステムの論理構成例



次に、論理構成の要素について説明します。

論理システム

インターネットショッピングシステムなどのシステム全体を示します。

論理グループ

論理システムの構成要素をまとめたグループを示します。負荷分散の対象として定義する「ロードバランシンググループ」と、システム内の役割で定義する「ユニットグループ」があります。

論理サーバ

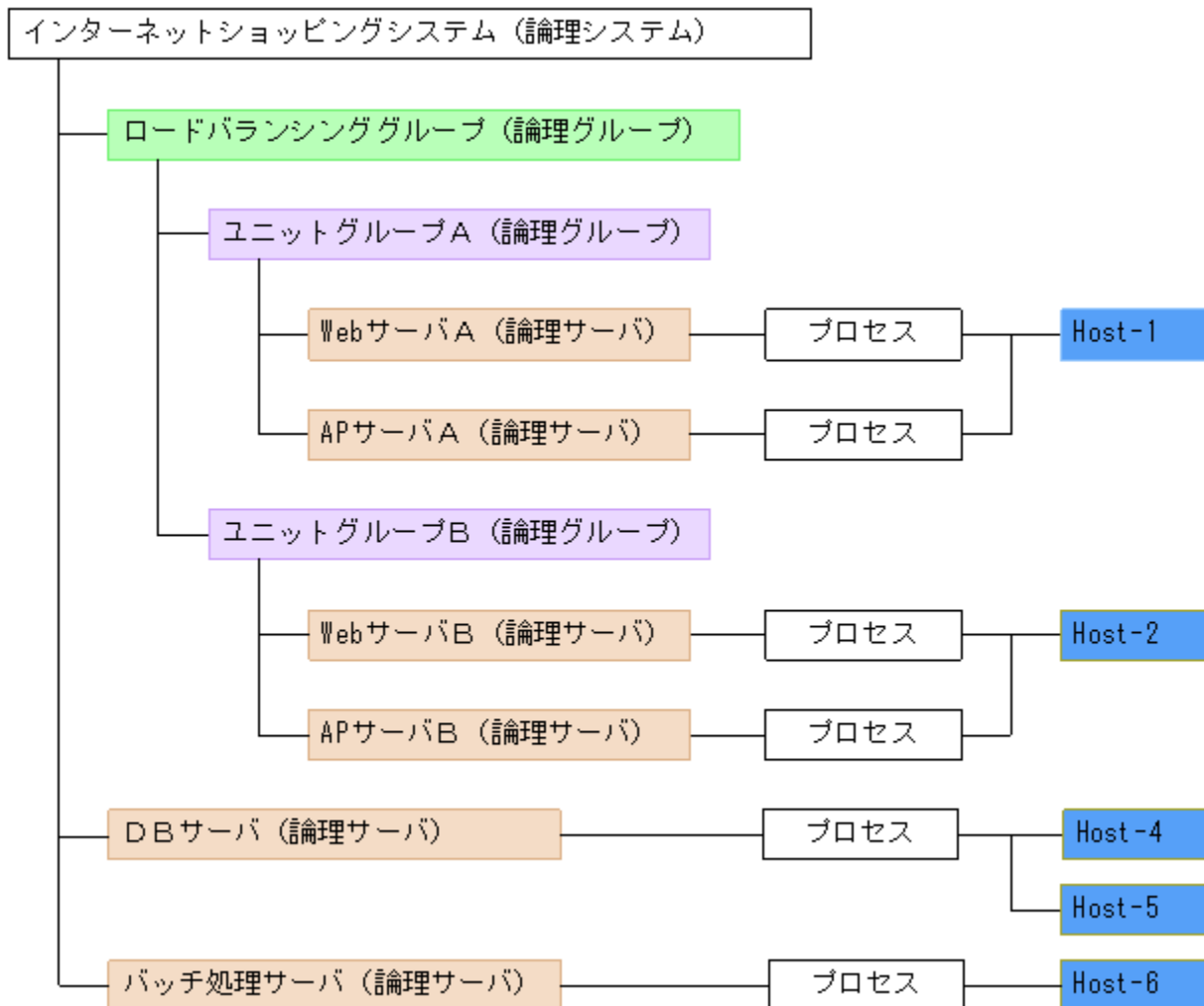
論理システムを構成する機能的なサーバを示します。論理サーバには、「Webサーバ」、「APサーバ」、「DBサーバ」があります。「ユーザー定義サーバ」として、ユーザーが任意に論理サーバを作成することもできます。

仮想ホスト

物理リソースと対応づけることができる擬似的な物理ホストを示します。マッピングでは、主にこの仮想ホストと物理ホストを対応づけます。DBサーバなど、複数の物理リソースで構成される論理サーバがあるため、論理サーバは仮想ホストに対応させて管理します。

図 3-2 の論理構成を「論理システム」をルートとした階層イメージで示した例を、次の図に示します。

図 3-3 インターネットショッピングシステムの階層イメージ



論理構成の定義は、「論理システム」を基点にして「論理グループ」と「論理サーバ」の階層を定義し、さらに、「論理サーバ」と「仮想ホスト」との対応を定義します。

3.1.2 構成情報の定義方法

論理構成および物理構成を定義したり、マッピングを定義したりするには、次に示す 3 とおりの方法があります。

- **JP1/IM - View (GUI)からの定義**

JP1/IM-View を起動して表示される画面 (GUI) に従って構成を定義します。JP1/IM - View の GUI を使用した定義については、「12. システム構成を定義する」、およびマニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス 1. 画面」を参照してください。

- **構成情報収集コマンドによる定義**

構成情報収集コマンドを使用して JP1/IM - CM と連携するプログラムから、構成情報を収集して定義します。構成情報収集コマンドについては「3.4 構成情報の収集」を参照してください。

- **定義ファイルのインポートによる定義**

システム構成情報の定義ファイルを、構成管理 DB (JP1/IM - CM が管理する論理構成のオブジェ

クト情報などが格納されたデータベース)へインポートします。構成情報のインポートについては、「4.2 構成情報のインポート・エクスポート」を参照してください。

3.1.3 論理システムの定義

システムアーキテクチャの最上位である論理システムの定義について説明します。論理システムの定義には、新規作成、変更、および削除機能があります。

(1) 論理システムの定義機能と定義方法

論理システムの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-1 論理システム定義内容一覧

項番	定義機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	論理システムの新規作成	○	○	○
2	論理システムの変更	○	○	○
3	論理システムの削除	○	—	—

(凡例)

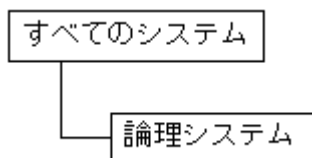
○:定義できる

—:定義できない

注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) 論理システムの新規作成

論理システムの新規作成について説明します。論理システムは、[すべてのシステム]オブジェクトの下に作成できます。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは論理システムを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- 論理システムの配下には、複数の論理グループおよび複数の論理サーバを定義できます。論理システム、プロセス、および仮想ホストは定義できません。
- 論理システムの配下に含まれる、論理グループ、論理サーバ、プロセス、および仮想ホストは、すべてユニークな名称を設定します。オブジェクトが異なっても、同一の名称は定義できません。
- 同一名称の論理システムは定義できません。

次に、論理システム作成時に設定する項目と、その内容を示します。

表 3-2 論理システムの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	論理システムの名称を設定します。	必須
2	論理システム名	論理システムの名称を設定します。	任意 ^{※1, ※2}
3	説明	論理システムに対する説明を設定します。	任意
4	Scenario Operation Manager ホスト名	JP1/AJS2 - SO Manager のホスト名を設定します。	任意 ^{※3}
5	所有者	論理システムを作成した JP1 ユーザー名が設定されます。	任意 ^{※4}
6	JP1 資源グループ	JP1 資源グループ名を設定します。	任意 ^{※4, ※5}
7	状態	定義した論理システムの状態を選択します。 選択できる状態については、表 3-3 を参照してください。	必須
8	テンプレート	定義する論理システムのテンプレートを選択します。 選択できるテンプレートの種別は表 3-4 を参照してください。	必須

注※1 設定できる文字および設定できる文字数(バイト数)の範囲は、JP1/AJS2 - SO に設定できるシナリオグループ(ジョブグループ)、または Cosminexus Smart Composer で指定できる Web システム名の制限と同じです。

注※2 テンプレートの種別が「Web 推奨モデル」であり、かつ Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力する場合だけ必須となります。

注※3 JP1/AJS2 - SO と連携する場合は必須となります。

注※4 設定できる文字は、JP1/Base で設定できる文字と同じです。JP1/Base で設定できる文字については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

注※5 JP1 資源グループ名が設定されていない場合は、業務管理者権限を持つすべてのユーザーがアクセスできます。

次に、論理システムの状態とテンプレートの種別を表に示します。

表 3-3 論理システムの状態

項番	状態	説明
1	定義中	JP1/IM - CM 上で論理システムを定義している状態です。論理構成定義やマッピング定義の定義が完了した時点で[構築中]に移行できます。
2	構築中	JP1/IM - CM 上で定義した論理システムを、実際のマシン上に構築している状態です。すべての構築が完了した時点で[確認中]に移行できます。
3	確認中	JP1/IM - CM 上で定義した論理システムと、実際のマシン上に構築したシステムとの整合性を確認する状態です。 論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。
4	稼働中	JP1/IM - CM 上で定義した論理システムが、実際のマシン上に構築したシステムで運用・監視している状態です。 論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。

表 3-4 テンプレートの種別一覧

項番	種別	説明
1	Web 推奨モデル	論理システムを Web3階層の推奨モデルで定義する場合に指定します。 論理システムの作成は、ロードバランシンググループで指定するユニットグループの多重度に従い、論理 Web サーバと論理 AP サーバを順次定義するためのウィザード形式で定義します。 一度、定義した Web 推奨モデルの論理システムは、ほかの種別への変更はできません。 Web 推奨モデルを指定した論理システムだけ、Cosminexus Smart Composer のファイル出力機能を使用して、Cosminexus の簡易構築機能の初期構築用ファイルを出力できます。「Cosminexus Smart Composer のファイル出力機能」については、「4.2.3 Cosminexus Smart Composer 用ファイル」を参照してください。
2	フリーパターン	Web3階層以外の論理システムを定義する場合に指定します。 論理システムの作成は、ロードバランシンググループ、ユニットグループ、および論理サーバをユーザーが自由に配置して定義できます。 一度、定義したフリーパターン形式の論理システムは、ほかの種別に変更できません。

(3) 論理システムの変更

論理システムの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でシステムの所有者以外の項目を変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システム、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- 論理システムの情報を変更しても、そのシステムの配下にある論理グループ、論理サーバ、仮想ホスト、プロセスなどに対しては影響を与えません。

(4) 論理システムの削除

論理システムの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

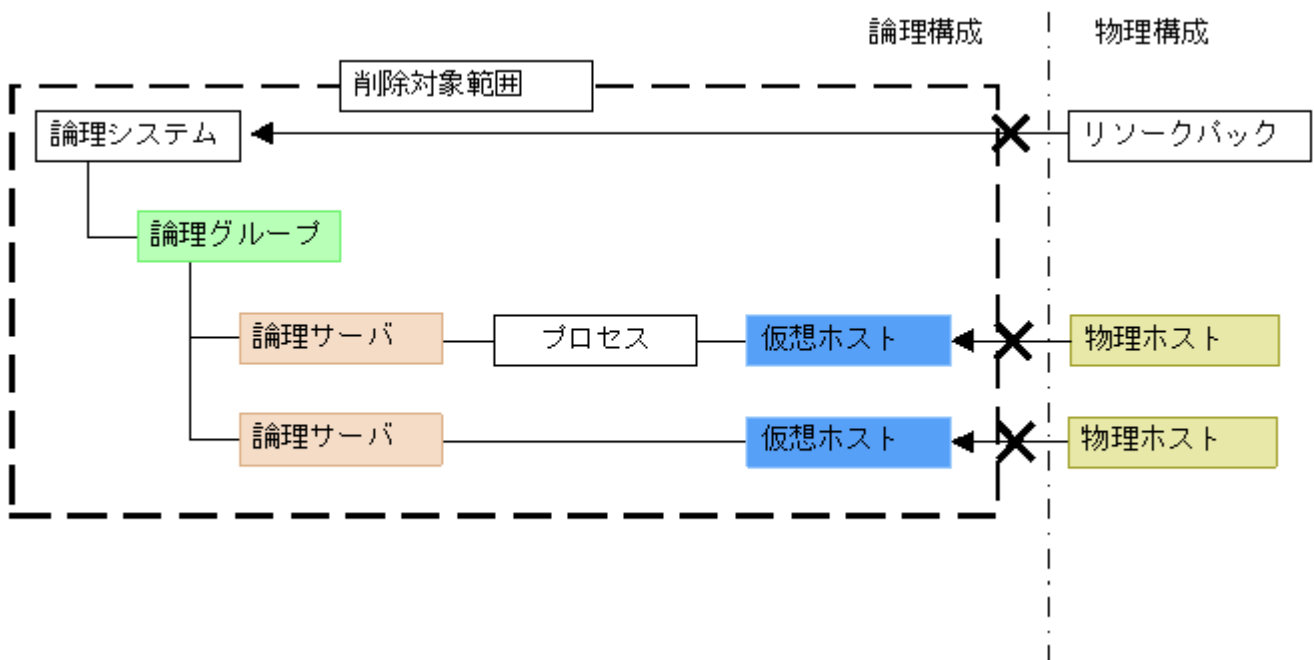
アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システム、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 論理システムを削除した場合は、その論理システムの配下にある論理グループ、論理サーバ、プロセス、仮想ホスト、およびそれらのマッピング情報が削除されます。
- 同時に複数の論理システムを削除できません。

論理システムの削除時の削除対象範囲を次に示します。



3.1.4 論理グループの定義

システムの構成を論理的にグループ化する「**論理グループ**」の定義について説明します。論理グループには、**ロードバランシンググループ**と**ユニットグループ**の2種類があります。また、論理グループの定義には、新規作成、変更、および削除機能があります。

(1) 論理グループの定義機能と定義方法

論理グループの定義機能と定義方法を次に示します。なお、ロードバランシンググループとユニットグループでは、定義機能および定義方法は同じです。

表 3-5 論理グループ定義機能一覧

項番	定義機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	論理グループの新規作成	○	○	○
2	論理グループの変更	○	○	○
3	論理グループの削除	○	—	—

(凡例)

○:定義できる

—:定義できない

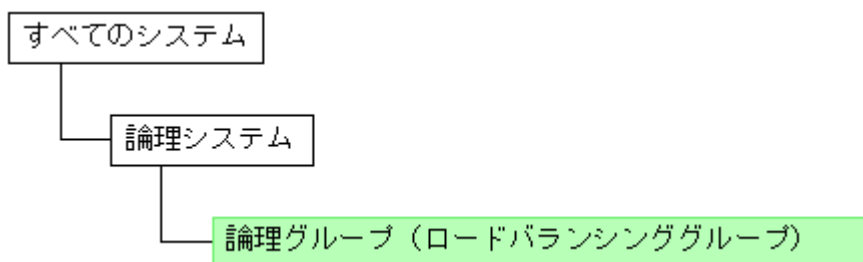
注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) ロードバランシンググループの定義

ロードバランシンググループの新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) ロードバランシンググループの新規作成

ロードバランシンググループ(論理グループ)の新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの直下に、ロードバランシンググループを新規に作成できます。また、ユニットグループの直下にも、ロードバランシンググループを新規に作成できます。

- 業務管理者権限

- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるロードバランシンググループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるロードバランシンググループです。

作成したロードバランシンググループのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- ロードバランシンググループの直下には、複数のユニットグループまたは複数の論理サーバを定義できます。論理システム、プロセス、仮想ホスト、およびロードバランシンググループは定義できません。
- ユニットグループの直下には、ロードバランシンググループを定義できます。
- 同一の論理システム内に、同一名称のロードバランシンググループ、ユニットグループ、論理サーバ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。

次に、ロードバランシンググループの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-6 ロードバランシンググループの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	ロードバランシンググループの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	ロードバランシンググループの Cosminexus での管理名を設定します。	任意 ^{*1}
3	説明	ロードバランシンググループに対する説明を設定します。	任意
4	仮想 IP アドレス	ロードバランシンググループの仮想 IP アドレスを設定します。	任意 ^{*1}
5	種別	ロードバランシンググループの種別を選択します。選択できる種別については表 3-7 を参照してください。	必須
6	ロードバランシング方式	ロードバランシング方式を設定します。	任意
7	多重度	定義するロードバランシンググループが、負荷分散の対象とするユニットグループの数を指定します。 Web 推奨モデルによる論理システムの新規作成のときだけ指定できます。	必須 ^{*2}
8	ポート情報	ポートの情報を設定します。ポート情報に設定できる情報については、表 3-8 を参照してください。	任意

注※1 Web 推奨モデルによる論理システム定義時、ロードバランシンググループの種別に「ロードバランサ」を指定した場合は必須となります。

注※2 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」の場合だけ必須となります。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-7 ロードバランシンググループの種別一覧

項番	種別	説明
1	ロードバランサ	ロードバランサを使用する場合に指定します。
2	その他	そのほかのロードバランシンググループ。または、ロードバランサを使用しないでロードバランシングを実現する場合に指定します。

注 Web 推奨モデルによる論理システム定義時には、「ロードバランシンググループ」を必ず定義しなければなりません。また、「ロードバランサ」を選択した場合、ロードバランシンググループとロードバランサのマッピング定義は、Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力するときに自動的に割り当てられます。

表 3-8 ポート情報一覧

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	ポート名称	ポートの名称(サービス名)を設定します。	任意
2	ポート番号	仮想ホストのポート番号を設定します。	任意*
3	ポート種別	ポート種別を設定します。	任意

注※ Web 推奨モデルによる論理システムの定義時に、種類で「ロードバランサ」を選択した場合だけ必須となります。

(b) ロードバランシンググループの変更

ロードバランシンググループの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でロードバランシンググループの名称、説明、種別、IP アドレスなどを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるロードバランシンググループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるロードバランシンググループです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- ロードバランシンググループの情報を変更しても、そのロードバランシンググループの配下にある論理グループ、論理サーバ、仮想ホスト、およびプロセスに対しては影響を与えません。

(c) ロードバランシンググループの削除

ロードバランシンググループの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でロードバランシンググループを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

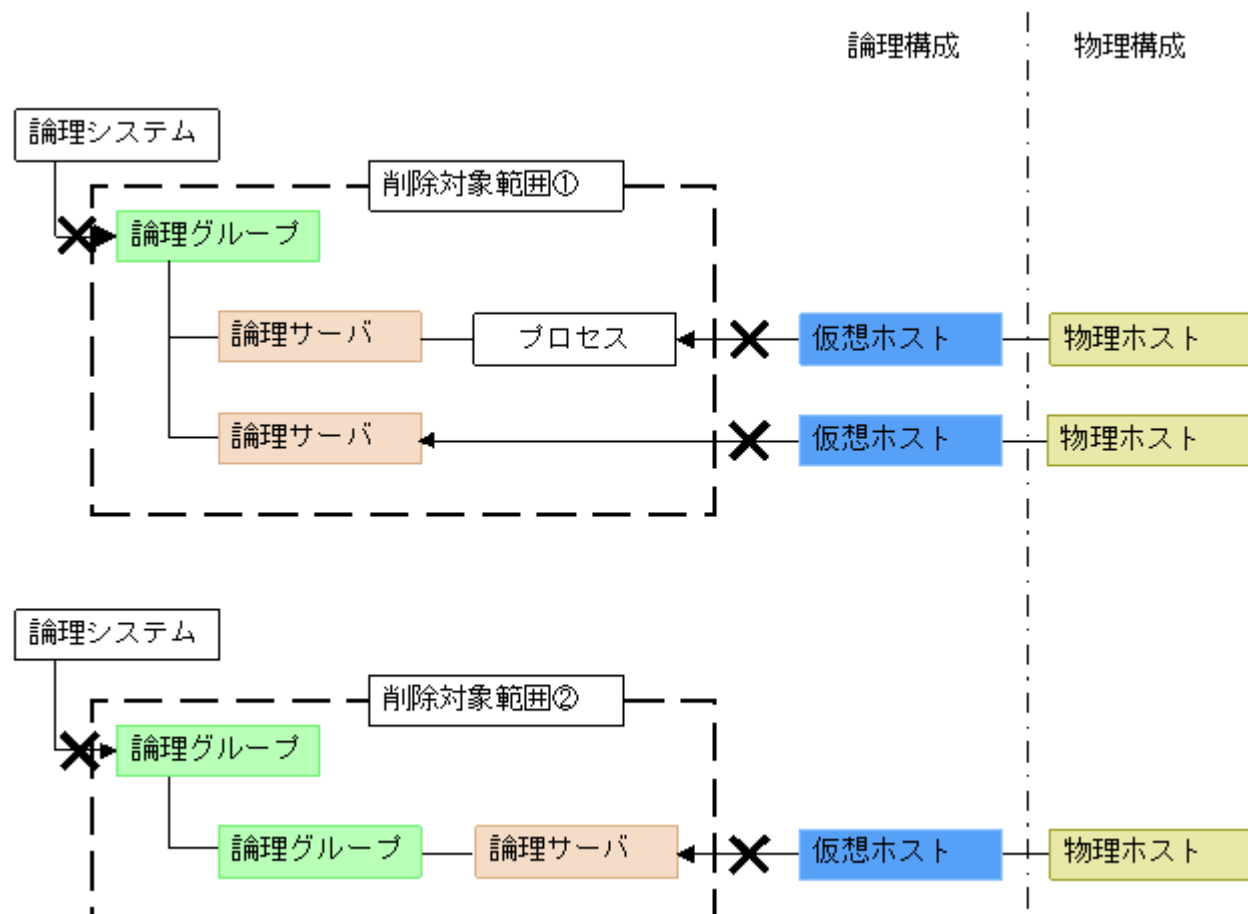
アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるロードバランシンググループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるロードバランシンググループです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- ロードバランシンググループを削除した場合は、そのロードバランシンググループの配下にある論理グループ、論理サーバ、およびプロセスが削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数のロードバランシンググループを削除できません。

論理グループの削除時の対象範囲を次に示します。

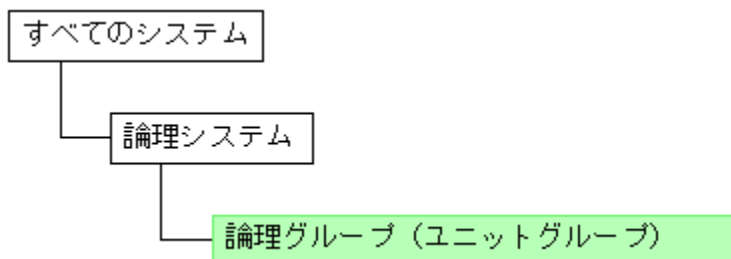


(3) ユニットグループの定義

ユニットグループの新規作成, 変更, および削除の定義機能について説明します。

(a) ユニットグループの新規作成

ユニットグループ(論理グループ)の新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの直下にユニットグループを新規に作成できます。また、ロードバランシンググループの直下にもユニットグループを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるユニットグループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユニットグループです。

作成したユニットグループのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

作成規則

- ユニットグループ直下に、複数のロードバランシンググループまたは複数の論理サーバを定義できます。論理システム、プロセス、仮想ホスト、およびユニットグループは定義できません。
- ロードバランシンググループの直下に、ユニットグループを定義できます。
- 同一論理システム内に、同一名称のユニットグループ、ロードバランシンググループ、論理サーバ、プロセス、および仮想ホストを定義できません。

次に、ユニットグループの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-9 ユニットグループの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	ユニットグループの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	ユニットグループの Cosminexus での管理名を設定します。	任意*
3	説明	ユニットグループに対する説明を設定します。	任意

注※ 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」であり、かつ Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力する場合だけ必須となります。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

(b) ユニットグループの変更

ユニットグループの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でユニットグループの名称、説明などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるユニットグループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユニットグループです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- ユニットグループの情報を変更しても、そのユニットグループの配下にある論理グループ、論理サーバ、仮想ホスト、およびプロセスに対しては影響を与えません。

(c) ユニットグループの削除

ユニットグループの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でユニットグループを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるユニットグループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユニットグループです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- ユニットグループを削除した場合は、そのユニットグループの配下にある論理グループ、論理サーバ、およびプロセスが削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数のユニットグループを削除できません。

論理グループの削除時の対象範囲については、「3.1.4(2)(c) ロードバランシンググループの削除」の削除規則を参照してください。

3.1.5 論理サーバの定義

論理システムを構成する機能サーバ「**論理サーバ**」の定義について説明します。論理サーバには、**論理 Web サーバ**、**論理 AP サーバ**、**論理 DB サーバ**、および**ユーザー定義サーバ**の4種類があります。また、論理サーバの定義には、新規作成、変更、および削除機能があります。

論理サーバは、業務管理者が管理対象とする論理システムを構成する一つ以上の仮想ホストから成り立つ仮想的なサーバです。

(1) 論理サーバの定義機能と定義方法

論理 Web サーバ、論理 AP サーバ、論理 DB サーバ、およびユーザー定義サーバの定義機能と定義方法を次の表に示します。なお、各論理サーバで定義機能と定義方法は同じです。

表 3-10 論理サーバ定義機能一覧

項番	定義機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	論理サーバの新規作成	○	○	○
2	論理サーバの変更	○	○	○
3	論理サーバの削除	○	—	—

(凡例)

○:定義できる

—:定義できない

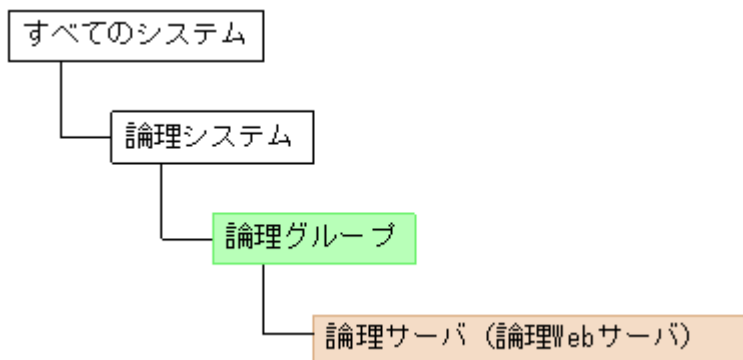
注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) 論理 Web サーバの定義

論理 Web サーバの新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) 論理 Web サーバの新規作成

論理 Web サーバ(論理サーバ)の新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの配下に論理 Web サーバを新規に作成できます。また、論理グループの配下にも論理 Web サーバを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 Web サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 Web サーバです。

作成した論理 Web サーバのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- 論理 Web サーバの直下に、複数のプロセスおよび複数の仮想ホストを定義できます。論理システム、論理グループ、および論理サーバは定義できません。
- 同一の論理システム内に、同一名称の論理サーバ、論理グループ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。

次に、論理 Web サーバの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-11 論理 Web サーバの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	論理 Web サーバの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	論理 Web サーバの Cosminexus での管理名を設定します。	任意*
3	説明	論理 Web サーバに対する説明を設定します。	任意
4	ミドルウェア情報 名称	論理 Web サーバが稼働するミドルウェアの名称を設定します。	必須
5	ミドルウェア情報 バージョン	論理 Web サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
6	管理ミドルウェア情報	論理 Web サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの情報を設定します。管理ミドルウェア情報については表 3-12 を参照してください。	必須

注※ 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」であり、かつ Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力する場合だけ必須となります。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-12 管理ミドルウェア情報一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	論理 Web サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称を選択します。管理ミドルウェアの名称は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル*)にあらかじめ定義しておきます。	必須
2	バージョン	論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
3	ホスト名	論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名を選択します。管理ミドルウェアのホスト名は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル*)にあらかじめ定義しておきます。	必須

注※ コンボボックス表示内容定義ファイルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス コンボボックス表示内容定義ファイル」(3. 定義ファイル)を参照してください。

(b) 論理 Web サーバの変更

論理 Web サーバの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 Web サーバの名称、説明などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 Web サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 Web サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- 論理 Web サーバの情報を変更しても、その論理 Web サーバの配下にある仮想ホスト、プロセスに対しては影響を与えません。

(c) 論理 Web サーバの削除

論理 Web サーバの削除について説明します

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 Web サーバを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グル

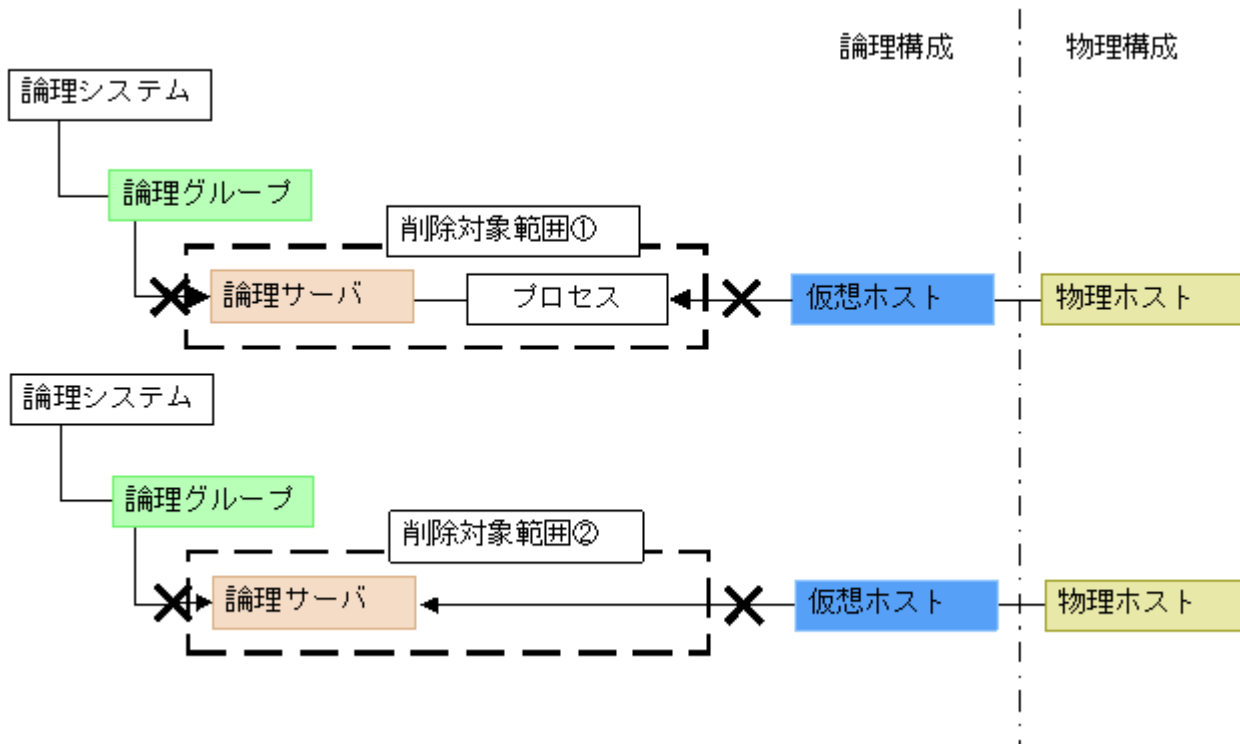
ープ名が設定されている論理システムの配下にある論理 Web サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 Web サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 論理 Web サーバを削除した場合は、その論理 Web サーバの配下にあるプロセスが削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数の論理サーバ(論理 Web サーバ)を削除できません。

論理サーバの削除時の対象範囲を次に示します。

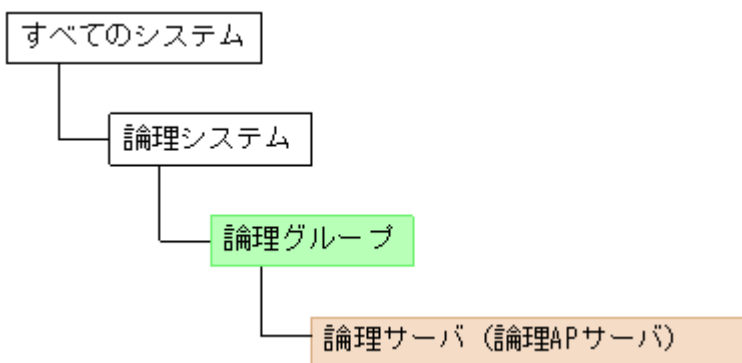


(3) 論理 AP サーバの定義

論理 AP サーバの新規作成, 変更, および削除の定義機能について説明します。

(a) 論理 AP サーバの新規作成

論理 AP サーバ(論理サーバ)の新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの配下に論理 AP サーバを新規に作成できます。また、論理グループの配下にも論理 AP サーバを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 AP サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 AP サーバです。

作成した論理 AP サーバのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- 論理 AP サーバの直下に、複数のプロセスおよび複数の仮想ホストを定義できます。論理システム、論理グループ、および論理サーバは定義できません。
- 同一の論理システム内に、同一名称の論理サーバ、論理グループ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。

次に、論理 AP サーバの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-13 論理 AP サーバの設定項目

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	論理 AP サーバの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	論理 AP サーバの Cosminexus での管理名を設定します。	任意*
3	説明	論理 AP サーバに対する説明を設定します。	任意
4	ミドルウェア情報 名称	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアの名称を設定します。	必須
5	ミドルウェア情報 バージョン	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
6	管理ミドルウェア情報	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの情報を設定します。管理ミドルウェア情報については表 3-14 を参照してください。	必須

注※ 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」であり、かつ Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力する場合だけ必須となります。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-14 管理ミドルウェア情報一覧

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称を選択します。管理ミドルウェアの名称は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル*)にあらかじめ定義しておきます。	必須
2	バージョン	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
3	ホスト名	論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名を選択します。管理ミドルウェアのホスト名は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル*)にあらかじめ定義しておきます。	必須

注※ コンボボックス表示内容定義ファイルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス コンボボックス表示内容定義ファイル」(3. 定義ファイル)を参照してください。

(b) 論理 AP サーバの変更

論理 AP サーバの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 AP サーバの名称、説明などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 AP サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 AP サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- 論理 AP サーバの情報を変更しても、その論理 AP サーバの配下にある仮想ホスト、プロセスに対しては影響を与えません。

(c) 論理 AP サーバの削除

論理 AP サーバの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 AP サーバを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 AP サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 AP サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 論理 AP サーバを削除した場合は、その論理 AP サーバの配下にあるプロセスが削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数の論理サーバ(論理 AP サーバ)を削除できません。

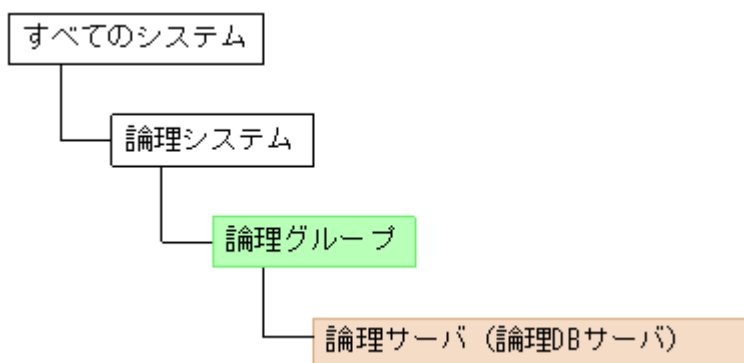
論理サーバの削除時の対象範囲については、「3.1.5(2)(c) 論理 Web サーバの削除」の削除規則を参照してください。

(4) 論理 DB サーバの定義

論理 DB サーバの新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) 論理 DB サーバの新規作成

論理 DB サーバ(論理サーバ)の新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの配下に論理 DB サーバを新規に作成できます。また、論理グループの配下にも論理 DB サーバを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 DB サーバ、または JP1 資源グループ名が設定さ

れていない論理システムの配下にある論理 DB サーバです。

作成した論理 DB サーバのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- 論理 DB サーバの直下に、複数のプロセスおよび複数の仮想ホストを定義できます。論理システム、論理グループ、および論理サーバは定義できません。
- 同一の論理システム内に、同一名称の論理サーバ、論理グループ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。

次に、論理 DB サーバの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-15 論理 DB サーバの設定項目

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	論理 DB サーバの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	論理 DB サーバの Cosminexus での管理名を設定します。	任意*
3	説明	論理 DB サーバに対する説明を設定します。	任意
4	ミドルウェア情報名称	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアの名称を設定します。	必須
5	ミドルウェア情報バージョン	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
6	管理ミドルウェア情報	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの情報を設定します。管理ミドルウェア情報については表 3-16 を参照してください。	必須

注※ 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」の場合、指定しても使用されません。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-16 管理ミドルウェア情報一覧

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称を選択します。管理ミドルウェアの名称は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル [※])にあらかじめ定義しておきます。	必須
2	バージョン	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
3	ホスト名	論理 DB サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名を選択します。管理ミドルウェアのホスト名は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル [※])にあらかじめ定義しておきます。	必須

注※ コンボボックス表示内容定義ファイルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス コンボボックス表示内容定義ファイル」(3. 定義ファイル)を参照してください。

(b) 論理 DB サーバの変更

論理 DB サーバの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 DB サーバの名称、説明などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 DB サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 DB サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- 論理 DB サーバの情報を変更しても、その論理 DB サーバの配下にある仮想ホスト、プロセスに対しては影響を与えません。

(c) 論理 DB サーバの削除

論理 DB サーバの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理 DB サーバを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある論理 DB サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある論理 DB サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 論理 DB サーバを削除した場合、その論理 DB サーバの配下にあるプロセスも削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数の論理サーバ(論理 DB サーバ)を削除できません。

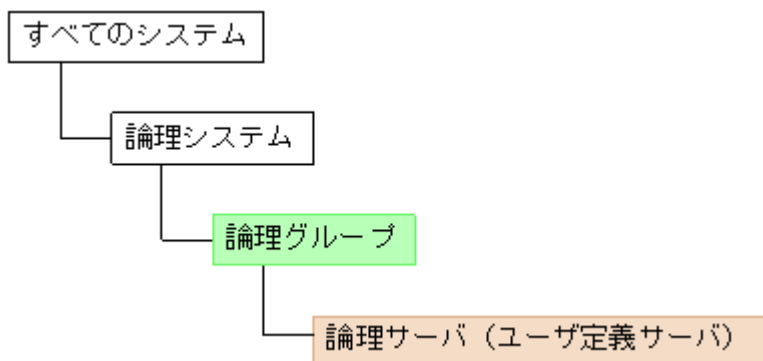
論理サーバの削除時の対象範囲については、「3.1.5(2)(c) 論理 Web サーバの削除」の削除規則を参照してください。

(5) ユーザー定義サーバの定義

ユーザー定義サーバ(論理サーバ)の新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) ユーザー定義サーバの新規作成

ユーザー定義サーバの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムの配下にユーザー定義サーバを新規に作成できます。また、論理グループの配下にもユーザー定義サーバを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グル

ープ名が設定されている論理システムの配下にあるユーザー定義サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユーザー定義サーバです。

作成されたユーザー定義サーバのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- ユーザー定義サーバの直下には、複数のプロセスおよび複数の仮想ホストを定義できます。論理システム、論理グループ、および論理サーバは定義できません。
- 同一の論理システム内に、同一名称の論理サーバ、論理グループ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。

次に、ユーザー定義サーバの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-17 ユーザー定義サーバの設定項目

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	ユーザー定義サーバの名称を設定します。	必須
2	Cosminexus 管理名	ユーザー定義サーバの Cosminexus での管理名を設定します。	任意 ※
3	説明	ユーザー定義サーバに対する説明を設定します。	任意
4	ミドルウェア情報 名称	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアの名称を設定します。	必須
5	ミドルウェア情報 バージョン	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
6	管理ミドルウェア情報	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの情報を設定します。管理ミドルウェア情報については表 3-18 を参照してください。	任意

注※ 上位の論理システムのテンプレートの種別が「Web 推奨モデル」の場合、指定しても使用されません。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-18 管理ミドルウェア情報一覧

項番	設定項目	詳細	必須/任意
1	名称	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称を設定します。	必須
2	バージョン	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを設定します。	必須
3	ホスト名	ユーザー定義サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名を選択します。	必須

(b) ユーザー定義サーバの変更

ユーザー定義サーバの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でユーザー定義サーバの名称、説明などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるユーザー定義サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユーザー定義サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- ユーザー定義サーバの情報を変更しても、そのユーザー定義サーバの配下にある仮想ホスト、プロセスに対しては影響を与えません。

(c) ユーザー定義サーバの削除

ユーザー定義サーバの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でユーザー定義サーバを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるユーザー定義サーバ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるユーザー定義サーバです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- ユーザー定義サーバを削除した場合は、そのユーザー定義サーバの配下にあるプロセスが削除されます。また、それらのマッピング情報も削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数の論理サーバ(ユーザー定義サーバ)を削除できません。

論理サーバの削除時の対象範囲については、「3.1.5(2)(c) 論理 Web サーバの削除」の削除規則を参照してください。

3.1.6 プロセスの定義

論理サーバの機能を実現するプロセスの定義について説明します。プロセスの定義には、新規作成、変更、および削除機能があります。

(1) プロセスの定義機能と定義方法

プロセスの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-19 プロセス定義機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	プロセスの新規作成	○	○	○
2	プロセスの変更	○	○	○
3	プロセスの削除	○	—	—

(凡例)

○:定義できる

—:定義できない

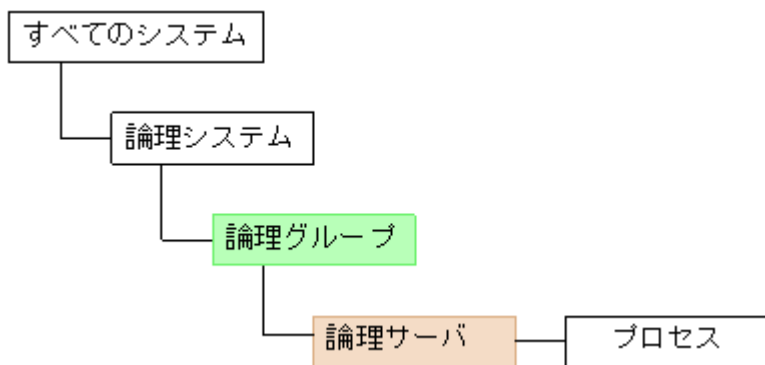
注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) プロセスの定義

プロセスの新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) プロセスの新規作成

プロセスの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理サーバの配下にプロセスを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるプロセス、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるプロセスです。

作成したプロセスのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- プロセスの配下には、一つの仮想ホストを定義できます。論理システム、論理グループ、論理サーバ、およびプロセスは定義できません。
- 同一の論理システム内では、複数のプロセスの配下には一つの同一仮想ホストを定義できます(プロセス:仮想ホストが、**n:1** となります)。
- 同一の論理システム内では、同一名称のプロセスを定義できません。

次に、プロセスの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-20 プロセスの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	プロセスの名称を設定します。	必須
2	説明	プロセスに対する説明を設定します。	任意
3	ミドルウェア種別	ミドルウェアの種別を選択します。ミドルウェアの種別は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル [*])にあらかじめ定義しておきます。	必須
4	プロセス種別	プロセスの種別を選択します。プロセス種別は、定義ファイル(コンボボックス表示内容定義ファイル [*])にあらかじめ定義しておきます。	必須
5	ポート情報	ポートの情報を設定します(複数設定できます)。ポート情報に設定できる情報については、表 3-21 を参照してください。	任意

注※ コンボボックス表示内容定義ファイルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス コンボボックス表示内容定義ファイル」(3. 定義ファイル)を参照してください。

表 3-21 ポート情報一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	ポート名称	ポートの名称(サービス名)を設定します。	任意
2	ポート番号	ポート番号を設定します。	任意
3	ポート種別	ポート種別を設定します。	任意

(b) プロセスの変更

プロセスの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でプロセスの名称などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるプロセス、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるプロセスです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

(c) プロセスの削除

プロセスの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でプロセスを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

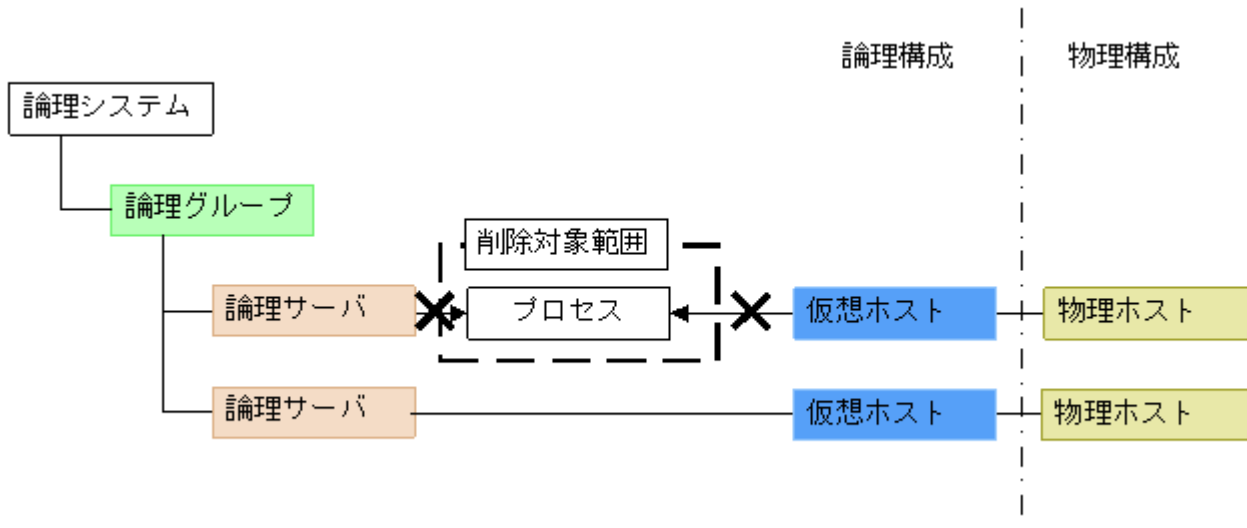
アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にあるプロセス、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にあるプロセスです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- プロセスを削除した場合、そのプロセスと仮想ホストとのリンク情報は削除されます。ただし、仮想ホストは削除されません。
- 同時に複数のプロセスを削除できません。

プロセスの削除時の対象範囲を次に示します。



3.1.7 仮想ホストの定義

業務管理者が管理対象としている論理システムを構成する論理サーバの、1台以上の物理ホストから成り立つ仮想的なホストの定義について説明します。仮想ホストの定義には、新規作成、変更、および削除の機能があります。

(1) 仮想ホストの定義機能と定義方法

プロセスの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-22 仮想ホスト定義機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	仮想ホストの新規作成	○	○	○
2	仮想ホストの変更	○	○	○
3	仮想ホストの削除	○	—	—

(凡例)

○: 定義できる

—: 定義できない

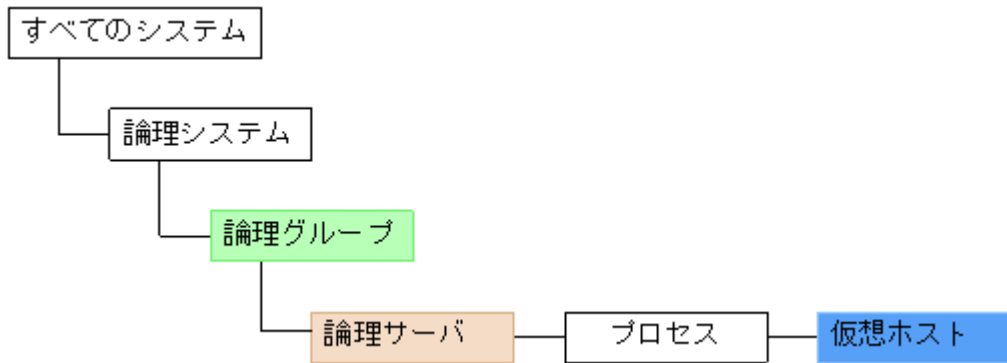
注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) 仮想ホストの定義

仮想ホストの新規作成、変更、および削除の定義機能について説明します。

(a) 仮想ホストの作成

仮想ホストの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理サーバの配下に仮想ホストを新規に作成できます。また、プロセスの配下にも仮想ホストを新規に作成できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある仮想ホスト、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある仮想ホストです。

作成した仮想ホストのアクセス権限は、論理システムのアクセス権限を継承します。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- 一つのプロセスの配下に、一つの仮想ホストを定義できます。
- 一つの論理サーバの配下に、複数の仮想ホストを定義できます。
- 複数のプロセスの配下または複数の論理サーバの配下に、一つの仮想ホストを定義できます（プロセスまたは論理サーバ:仮想ホストが、 $n:1$ となります）。
- 仮想ホストの配下に、論理システム、論理グループ、論理サーバ、プロセス、および仮想ホストは定義できません。
- 同一論理システム内に同一名称の仮想ホスト、論理グループ、論理サーバ、およびプロセスの定義はできません（仮想ホストの名称は、業務用ホスト名が該当します）。

次に、仮想ホストの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-23 仮想ホストの設定項目

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	業務用ホスト名	仮想ホストの業務用のホスト名を設定します。	必須
2	業務用 IP アドレス	仮想ホストの業務用の IP アドレスを設定します。	必須
3	業務用サブネットマスク	仮想ホストの業務用のサブネットマスクを設定します。	必須
4	管理用ホスト名	仮想ホストの管理用のホスト名を設定します。	必須
5	管理用 IP アドレス	仮想ホストの管理用の IP アドレスを設定します。	必須
6	管理用サブネットマスク	仮想ホストの管理用のサブネットマスクを設定します。	必須
7	Cosminexus 連携用ホスト名	仮想ホストの Cosminexus 用ホスト名を設定します。	任意 [※]
8	要求仕様	仮想ホストに要求される仕様を設定します。 物理ホストとマッピングするときの参考情報となります。 設定できるプロパティ項目については、表 3-24 を参照してください。	任意
9	説明	仮想ホストに対する説明を設定します。	任意
10	冗長構成	仮想ホストをクラスタ構成などの冗長構成にするかどうかの情報を指定します。	必須
11	Tier 種別	Cosminexus の Tier 種別を設定します。 このプロパティは、Web 推奨モデルによる論理構成の定義時に設定します。	任意

注※ 上位の論理システムのテンプレート種別が「Web 推奨モデル」であり、かつ Cosminexus Smart Composer の XML ファイルを出力する場合だけ必須となります。テンプレートの種別が「フリーパターン」の場合は指定できません。

表 3-24 要求仕様一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	CPU 種別	CPU の種別を設定します。	任意
2	CPU クロック数	CPU クロック数を設定します。	任意
3	CPU 搭載数	CPU 搭載数を設定します。	任意
4	メモリ容量	メモリ容量を設定します。	任意
5	ディスク容量	ディスク容量を設定します。	任意
6	OS 名称	OS 名称を設定します。	任意
7	OS バージョン	OS バージョンを設定します。	任意

(b) 仮想ホストの変更

仮想ホストの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で仮想ホストの業務用ホスト名などを変更できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある仮想ホスト、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある仮想ホストです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

(c) 仮想ホストの削除

仮想ホストの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で仮想ホストを削除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

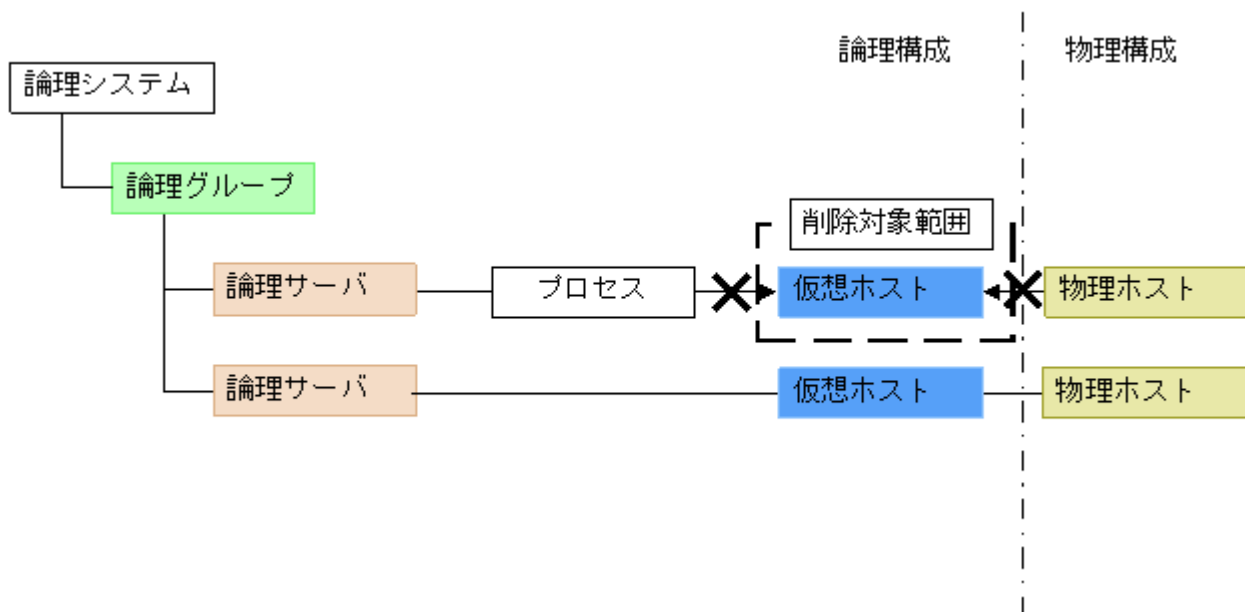
アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムの配下にある仮想ホスト、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムの配下にある仮想ホストです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 仮想ホストを削除した場合は、その仮想ホストに関連する物理ホストとのマッピング情報も削除されます。
- 同時に複数の仮想ホストは削除できません。

仮想ホストの削除時の削除対象範囲を次に示します。

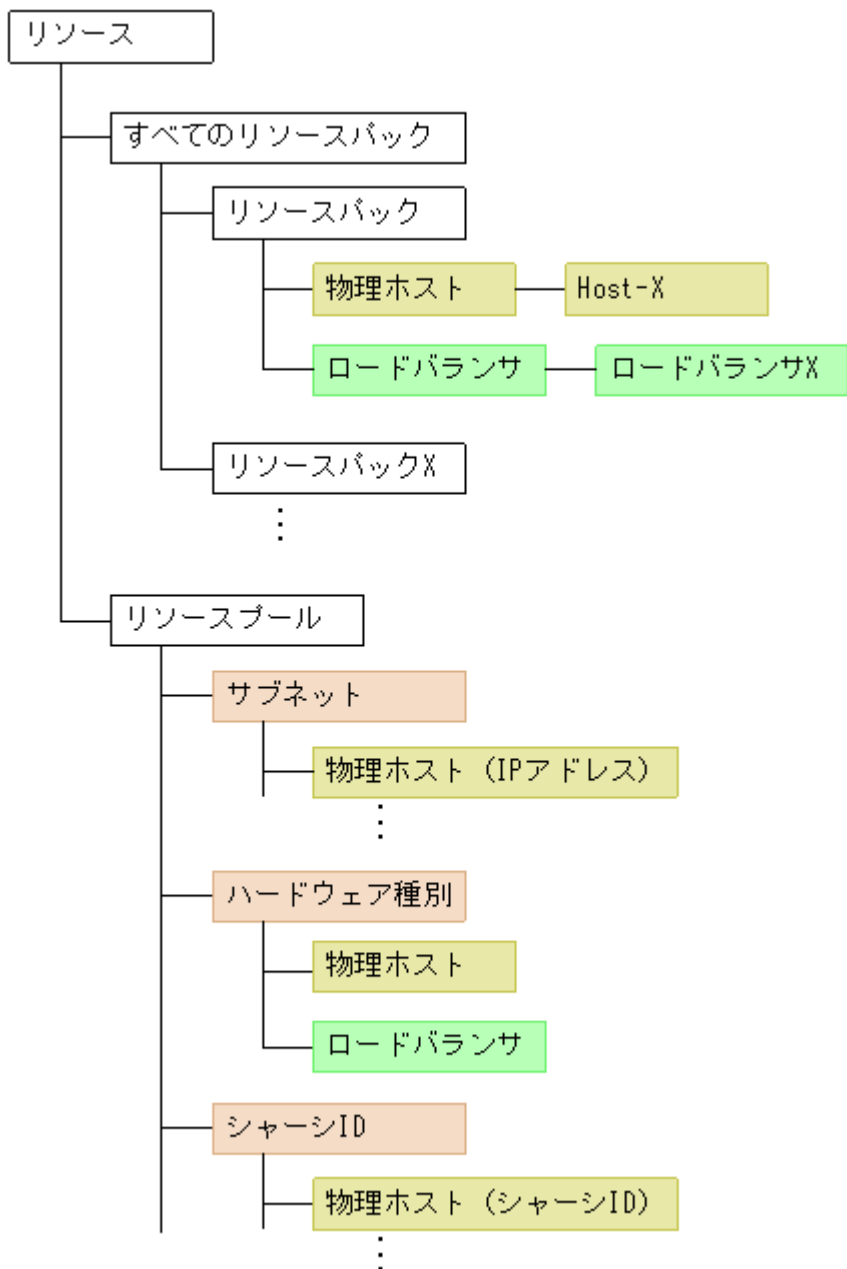


3.2 物理構成の定義

インフラ管理者が管理対象としているハードウェア(サーバ, ストレージ, ロードバランサ, スイッチなど)の物理的な構成を定義します。

JP1/IM - CM では, 次の図に示すハードウェアの情報を「リソースプール」, 「リソースパック」, 「カテゴリ」の三つのグループでグルーピングして管理します。

図 3-4 物理構成例



リソースプールは、JP1/IM - CM に一つだけ存在し、JP1/IM - CM が管理するリソースパックに割り当てることができるすべての**物理リソース**をグルーピングしたものです。新規に作成された物理リソースは、必ずリソースプールに登録されます。物理リソースは、サーバ、ロードバランサ、ストレージ、スイッチなどのハードウェアで、JP1/IM - CM で管理する最小構成管理要素です。

リソースパックは、論理システムを構成する物理リソースをグルーピングしたものです。一つの論理システムに一つのリソースパックが割り当てられます。リソースパックの目的は、業務管理者が定義した論理システムのシステム要件に対して、インフラ管理者が割り当てることができる物理リソースをグルーピングすることです。

カテゴリは、リソースプール内の物理リソースを特定の条件でグルーピングしたものです。カテゴリには、サブネット、ハードウェア種別、およびシャーシ ID があります。JP1/SC/Control Manager, JP1/NETM/AIM, または JP1/Cm2/NC - Manager から情報を収集した場合やユーザーがハードウェアを追加した場合に、自動的に作成されます。

3.2.1 リソースプールの定義

リソースプールは、インフラ管理者が管理対象としているハードウェア(サーバ, ロードバランサ, ストレージ, スイッチなど)を物理リソースとして定義します。または、物理リソースを特定の条件でグルーピングしたカテゴリとして定義します。

(1) リソースプールの定義機能と定義方法

リソースプールの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-25 リソースプール機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	物理ホストの新規作成	○	○	○
2	物理ホストの変更	○	○	○
3	物理ホストの削除	○	—	—
4	ロードバランサの新規作成	○	○	○
5	ロードバランサの変更	○	○	○
6	ロードバランサの削除	○	—	—
7	カテゴリの作成	—	○	○

(凡例)

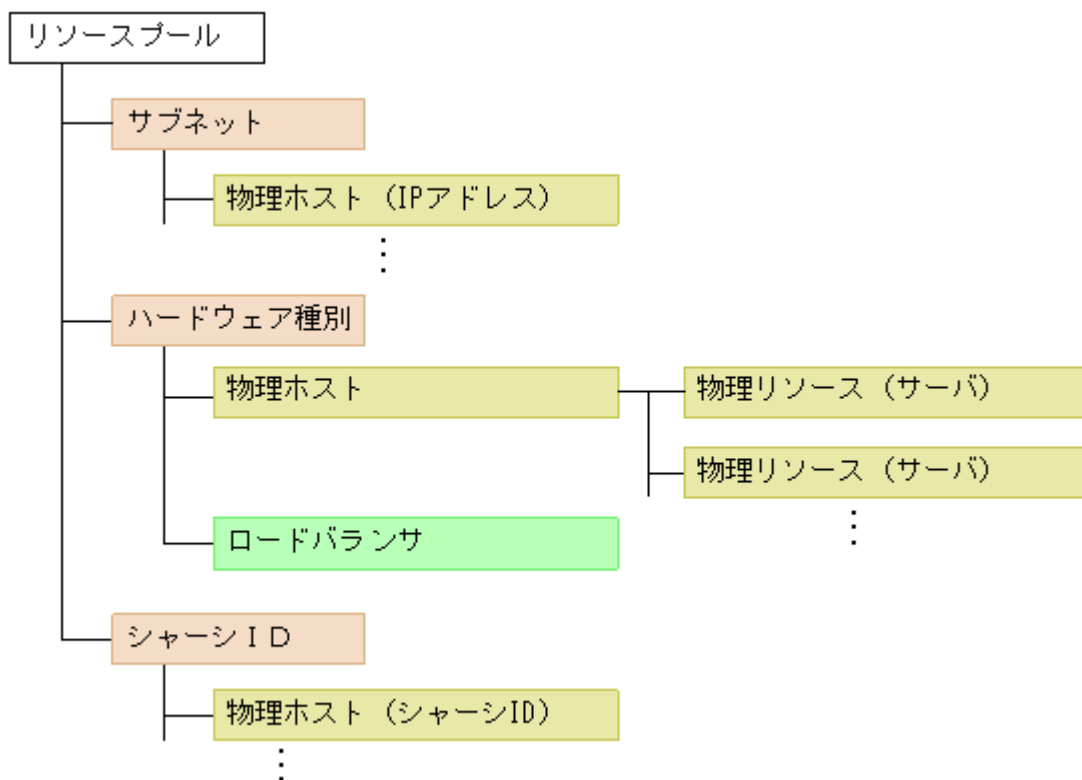
○: 定義できる

—: 定義できない

注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) 物理ホストの新規作成

物理ホストの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールに物理ホストを新規に作成できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- リソースパックには物理ホストを定義できません。

次に、物理ホストの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-26 物理ホストの設定項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	物理ホストの名称を設定します。	必須
2	説明	任意の情報を設定します(本番機または予備機などの情報を設定しておくことを推奨します)。	任意
3	共有	物理リソースをリソースパックに割り当てる際に共有できるかどうかの状態を設定します。	必須
4	CPU 種別	CPU の種別を設定します。	任意
5	CPU クロック数	CPU クロック数を設定します。	任意
6	CPU 搭載数	CPU 搭載数を設定します。	任意

7	メモリ容量	メモリ容量を設定します。	任意
8	ディスク容量	ディスク容量を設定します。	任意
9	OS 名称	OS 名称を設定します。	任意
10	OS バージョン	OS バージョンを設定します。	任意
11	N+1グループ名	JP1/SC/Control Manager からの取得情報に N+1 モデルの情報 が存在した場合のクラスタ名が設定されます。ユーザーの 指定はできません。	任意
12	系種別	JP1/SC/Control Manager からの取得情報に N+1 モデルの情報 が存在した場合、現用系または待機系の種別が設定され ます。ユーザーの指定はできません。	任意
13	資産 ID	JP1/NETM/AIMからの取得情報の AssetID が設定されます。 ユーザーの指定はできません。	任意
14	シャーシ ID	BladeSymphony のシャーシ ID を設定します。	任意
15	スロット番号	BladeSymphony のスロット番号を設定します。	任意
16	NIC 情報	NIC の情報を設定します(複数指定できます)。 設定できるプロパティ項目については、表 3-27 を参照してく ださい。	任意
17	ソフトウェア情報	物理ホストにインストールされているソフトウェア情報を設定し ます。 設定できるプロパティ項目については、表 3-28 を参照してく ださい。	任意

表 3-27 NIC 情報の属性項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	NIC 名	NIC 名を設定します。	任意
2	MAC アドレス	MAC アドレスを設定します。	任意
3	NIC 情報	NIC に設定されているネットワーク情報を設定します(複数指 定できます)。 複数設定されている場合、物理ホストの一覧には、先頭エント リのネットワーク情報を使用します。 設定できるプロパティ項目については、表 3-29 を参照してく ださい。	任意

表 3-28 ソフトウェア情報の属性項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	ソフトウェア名	ソフトウェア名を設定します。	任意
2	バージョン情報	バージョン情報を設定します。	任意

表 3-29 ネットワーク情報の属性項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	IP アドレス	IP アドレスを設定します。	任意
2	サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。	任意
3	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します。	任意

(a) 物理ホストの変更

物理ホストの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールまたはリソースパックのカテゴリから物理ホストのプロパティ情報を変更できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- ユーザーが変更できる物理ホストの情報は、ユーザーが定義した物理ホストの情報だけです。
- 連携する管理ミドルウェアから収集した情報について変更した場合、Link & Launch 機能などで管理ミドルウェアとの連携が正常に動作しないことがあります。

(b) 物理ホストの削除

物理ホストの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールのカテゴリから物理ホストを削除できます。

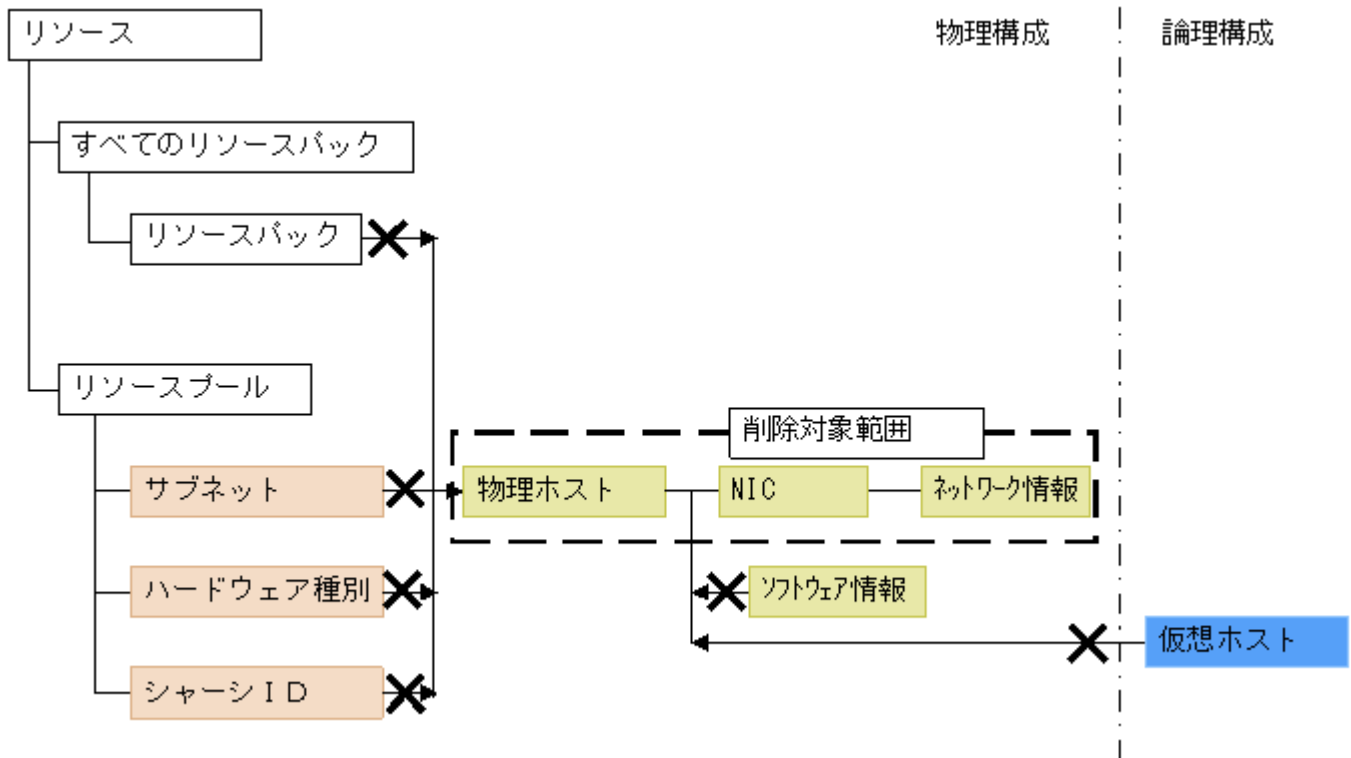
- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

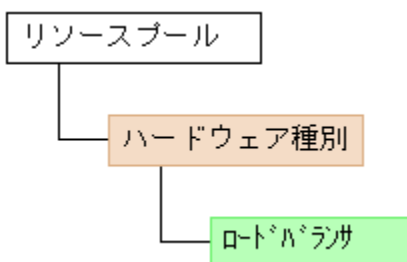
- リソースプールのカテゴリから物理ホストを削除した場合、その物理ホストに関連するすべての論理オブジェクトとのマッピング情報が削除されます。また、その物理ホストに関連するリソースパックとのマッピング情報についても削除されます。
- 同時に複数の物理ホストを削除できません。

物理ホストの削除時の削除対象範囲を次に示します。



(3) ロードバランサの新規作成

ロードバランサの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールにロードバランサを新規に作成できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

新規作成規則

- ロードバランサには物理リソースを定義できません。

次に、ロードバランサの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-30 ロードバランサの設定項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	ロードバランサの名称を設定します。	必須
2	説明	任意の情報を設定します(本番機または予備機などの情報を設定しておくことを推奨します)。	任意
3	デバイス名称	ロードバランサのデバイス名を設定します。	任意
4	モデル名	ロードバランサのモデルを設定します。	任意
5	管理 IP アドレス	ロードバランサの管理 IP アドレスを設定します。	任意
6	共有	ロードバランサをリソースパックに割り当てる際に共有できるかどうかの状態を設定します。	必須
7	バインドリスト	バインドリストの情報を設定します。 バインドリストの情報については、表 3-31 を参照してください。	任意

表 3-31 バインドリスト情報の属性項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	論理サービス情報	JP1/Cm2/NC から収集した論理サービスの情報が設定されます。ユーザーは設定できません。 論理システムのロードバランシンググループの仮想ホスト IP アドレス, ポート番号に該当します。	任意
2	物理サービスリスト	JP1/Cm2/NC から収集した物理サービス情報が設定されます。 物理サービスリストの情報については、表 3-32 を参照してください。	任意
3	ロードバランシング方式	ロードバランシング方式を設定します。	任意

表 3-32 物理サービスリスト情報の属性項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	物理サービス情報	JP1/Cm2/NC から収集した物理サービスの情報を設定します。ユーザーは設定できません。 論理システムの仮想ホストの業務用 IP アドレス, プロセスのポート番号に該当します。	任意

(a) ロードバランサの変更

ロードバランサの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールまたはリソースパックのカテゴリから、ロードバランサのプロパティ情報を変更できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

変更規則

- ユーザーが変更できるのは、ユーザーが定義したロードバランサの情報だけです。
- 連携する管理ミドルウェアから収集した情報について変更した場合、Link & Launch 機能などで管理ミドルウェアとの連携が正常に動作しないことがあります。

(b) ロードバランサの削除

ロードバランサの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースプールのカテゴリからロードバランサを削除できます。

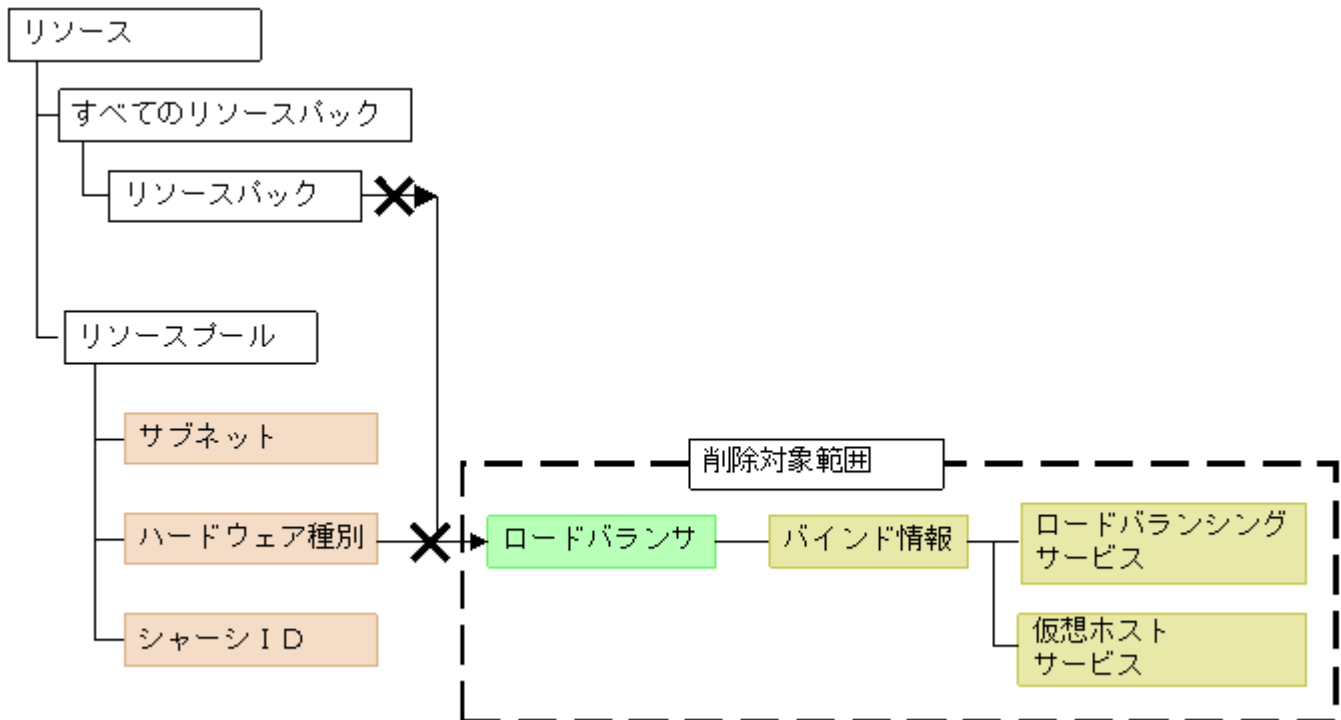
- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- リソースプールのカテゴリからロードバランサを削除した場合、そのロードバランサに関連するすべての論理オブジェクトとのマッピング情報は削除されます。また、ロードバランサに関連するリソースパックとのマッピング情報についても削除されます。
- 同時に複数のロードバランサを削除できません。

ロードバランサの削除時の削除対象範囲を次に示します。



(4) カテゴリの作成

JP1/SC/Control Manager, JP1/NETM/AIM, または JP1/Cm2/NC からの物理構成情報の収集時に、リソースプール内にカテゴリを自動的に作成します。また、ユーザーがハードウェアを追加した場合も、自動的にリソースプール内にカテゴリを作成します。作成されるカテゴリは次の 3 種類です。

- **ハードウェア種別**

収集および新規作成するハードウェアの種別(物理ホストまたはロードバランサ)ごとに、カテゴリを作成します。

- **サブネット**

収集および新規作成するハードウェアの種類が物理ホストの場合、物理ホストに定義されるネットワーク情報の IP アドレスと、サブネットマスクからサブネットを特定し、その値ごとにカテゴリを作成します。

- **シャーシID**

収集および新規作成するハードウェアの種類が物理ホストの場合、BladeSymphony のシャーシ ID ごとにカテゴリを作成します。

次に、カテゴリの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-33 カテゴリの設定項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	カテゴリの名称を設定します。 システムが自動的に設定するものであり、ユーザーは設定できません。	必須
2	条件	グルーピングするための条件を設定します。 システムが自動的に設定するものであり、ユーザーは設定できません。	必須

3.2.2 リソースパックの定義

リソースプール内の物理リソースから、論理システムのシステム要件を満たす物理リソースをグルーピングするためのソースパックを定義します。

(1) リソースパックの定義機能と定義方法

リソースパックの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-34 ソースパック定義機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	リソースパックの新規作成	○	—	—
2	リソースパックの変更	○	—	—
3	リソースパックの削除	○	—	—
4	リソースパックへの物理リソースの割り当て	○	—	—
5	物理リソースの割り当て情報の変更	○	—	—
6	リソースパックからの物理リソースの割り当て解除	○	—	—
7	リソースパック情報の JP1/SC/Control Manager への連携	○	—	—

(凡例)

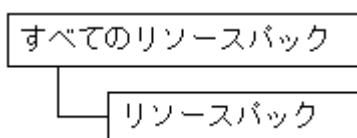
○:定義できる

—:定義できない

注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(a) リソースパックの新規作成

リソースパックの新規作成について説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、リソースパックを新規に作成できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

作成規則

- 作成したリソースパックの配下には自動的にカテゴリ(物理ホストおよびロードバランサ)が追加されます。
- 同一名称のリソースパックは定義できません。
- リソースパックの配下にはリソースパックを定義できません。

リソースパックの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-35 リソースパックの設定項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	名称	リソースパックの名称を設定します。	必須
2	説明	リソースパックの説明を設定します。	任意
3	JP1 資源グループ	JP1 資源グループ名を設定します。	任意 ^{*1, *2}
4	状態	定義したリソースパックの状態を選択します。 リソースパックの状態については、表 3-36 を参照してください。	必須
5	所有者	リソースパックの作成操作をした JP1 ユーザー名が設定されます。ユーザーは設定できません。	任意 ^{*2}

注※1 JP1 資源グループ名が設定されていない場合、インフラ管理者権限を持つすべてのユーザーがアクセスできます。

注※2 所有者と JP1 資源グループの設定できる文字は、JP1/Base での設定を引き継ぎます。

リソースパックには次に示す状態があります。

表 3-36 リソースパックの状態一覧

項番	状態	説明
1	定義中	リソースパックを JP1/IM-View 上で定義している状態です。 「定義中」から「定義完了」への移行は、ユーザーが実施します。
2	定義完了	リソースパックへの物理リソースの割り当てが完了した状態です。 リソースパックを論理システムに割り当てできます。

(b) リソースパックの変更

リソースパックの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でリソースパックの名称などを変更できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

(c) リソースパックの削除

リソースパックの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で既存のリソースパックを削除できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

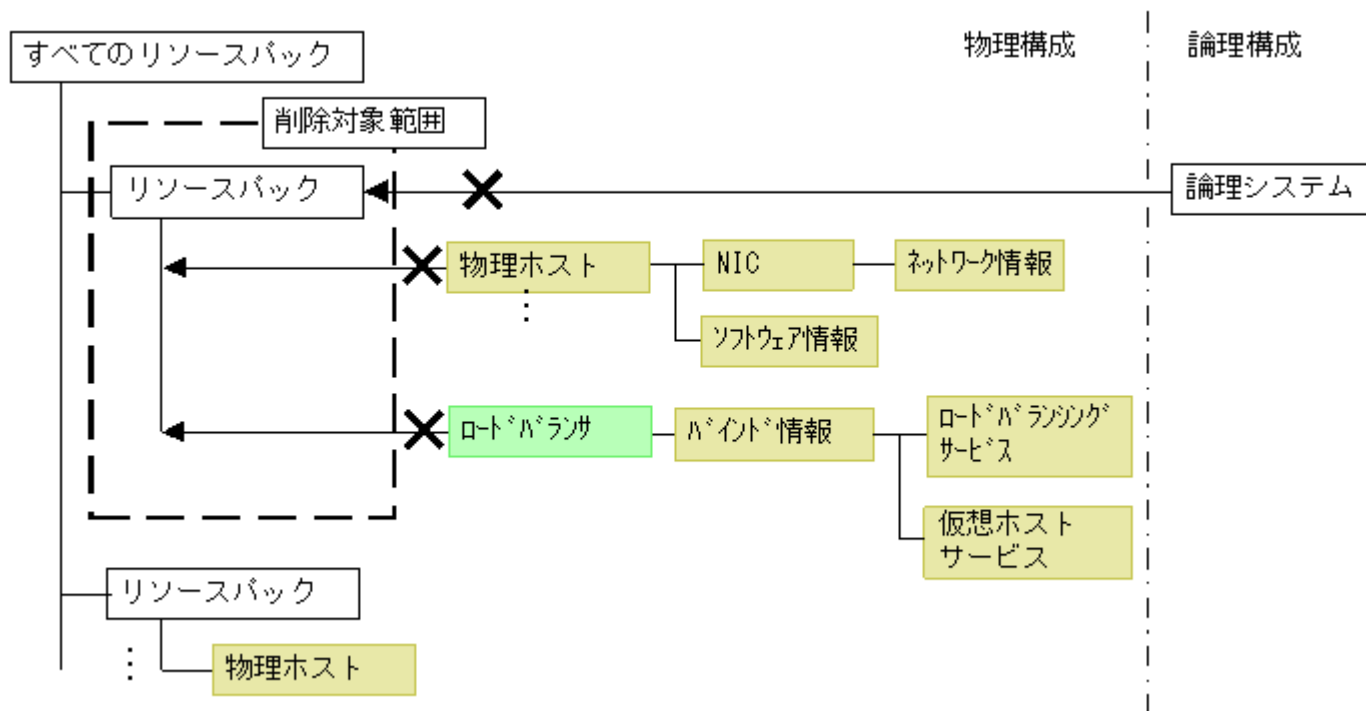
アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- リソースパックを削除した場合、リソースパックが割り当てられている論理システムとのマッピング情報、およびリソースパックに含まれる物理リソースに関連するすべての仮想ホストとのマッピング情報が削除されます。
- リソースパックを削除した場合、リソースパックに割り当てられているすべての物理リソースとリソースパックとのマッピング情報も削除されます。
- 同時に複数のリソースパックは削除できません。

リソースパックの削除時の削除対象範囲を次に示します。



(d) リソースパックへの物理リソースの割り当て

リソースパックへの物理ソースの割り当てについて説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でリソースパックに物理リソースを割り当てできます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

割り当ての規則

- リソースパックに物理リソースを割り当てる場合、リソースプールにあるリソースを割り当てます。
- リソースパックに物理リソースを割り当てると、リソースパックと物理リソースとのマッピング情報が生成されます。
- 物理リソースは、**共有リソース**か**占有リソース**かの選択ができます。共有リソースの場合は、その物理リソースは複数のリソースパックに対して割り当てできます。占有リソースの場合は、その物理リソースは一つのリソースパックに対してしか割り当てることができません。
- 物理リソースがリソースパックに割り当てられている場合は、その物理リソースが割り当てられているすべてのリソースパックを、JP1/IM - View の GUI 上に表示します。

- 一つのリソースパックに対して、複数の物理リソースを割り当てることができます。一つのリソースパックに対して、同一の物理リソースを重複して割り当ててはできません。

(e) 物理リソースの割り当て情報の変更

物理リソースの割り当て情報の変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で、リソースパック上での物理リソースの割り当て情報を変更できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

割り当て情報変更の規則

- 物理リソースが一つのリソースパックにだけ割り当てられている場合、物理リソースは、共有リソースまたは占有リソースに変更できます。
- 物理リソースが複数のリソースパックに割り当てられている場合は、占有リソースに変更できません。

(f) リソースパックからの物理リソースの割り当て解除

リソースパックからの物理リソースの割り当ての解除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でリソースパックから物理リソースの割り当てを解除できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

割り当て解除の規則

- リソースパックから物理リソースの割り当てを解除すると、リソースパックと物理リソースとのマッピング情報が削除されます。
- 論理システム内の仮想ホストとリソースパック内の物理リソースが割り当てられている場合、リソースパックから物理リソースへの割り当てを解除できません。

- 同時に複数のリソースパックと物理リソースの割り当てを解除できません。

(g) リソースパック情報の JP1/SC/Control Manager への連携

JP1/IM - View でリソースパックを定義すると、JP1/SC/Control Manager の物理ホストのグルーピング情報と連携できます。JP1/IM - CM のリソースパック名は、JP1/SC/Control Manager 側のサーバパック名となります。JP1/IM - CM の物理ホスト定義の MAC アドレスと JP1/SC/Control Manager 側で管理されているサーバの MAC アドレスが一致する場合に、JP1/SC/Control Manager のサーバパックにサーバがグルーピングされます。

リソースパックの定義または物理リソースの割り当てが変更となった場合、JP1/SC/Control Manager へリソースパック情報を連携します。リソースパック情報の連携をする場合は、JP1/IM - CM 動作設定ファイルを編集して、JP1/SC/Control Manager との連携設定を有効にしておく必要があります。

JP1/IM - CM 動作設定ファイルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス JP1/IM - CM 動作設定ファイル」を参照してください。

3.2.3 ソフトウェアの定義

物理ホストに関連づけられるソフトウェアを定義したり、物理ホストにソフトウェアを割り当てたりします。

(1) ソフトウェアの定義機能と定義方法

ソフトウェアの定義機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-37 ソフトウェア定義機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	ソフトウェアの新規作成	○	—	—
2	ソフトウェアの変更	○	—	—
3	ソフトウェアの削除	○	—	—
4	物理ホストへのソフトウェアの割り当て	○	—	—
5	物理ホストへのソフトウェアの割り当て解除	○	—	—

(凡例)

○:定義できる

—:定義できない

注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(a) ソフトウェアの新規作成

ソフトウェアの新規作成について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、ソフトウェアを新規に作成できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

作成規則

- 同一ソフトウェア名および同一バージョン情報のソフトウェアは定義できません。
- 「ソフトウェア名:バージョン情報」の名称を持つ、リソースパック、物理ホスト、NIC 情報、ネットワーク情報、ロードバランサ、バインド情報、論理サービス情報、および物理サービス情報は作成できません。

ソフトウェアの作成時に設定する項目とその内容を示します。

表 3-38 ソフトウェアの設定項目一覧

項番	設定項目	内容	必須/任意
1	ソフトウェア名	ソフトウェアの名称を設定します。	必須
2	バージョン情報	ソフトウェアのバージョンを設定します。	任意

(b) ソフトウェアの変更

ソフトウェアの変更について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でソフトウェア名、バージョン情報を変更できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

(c) ソフトウェアの削除

ソフトウェアの削除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で既存のソフトウェアを削除できます。

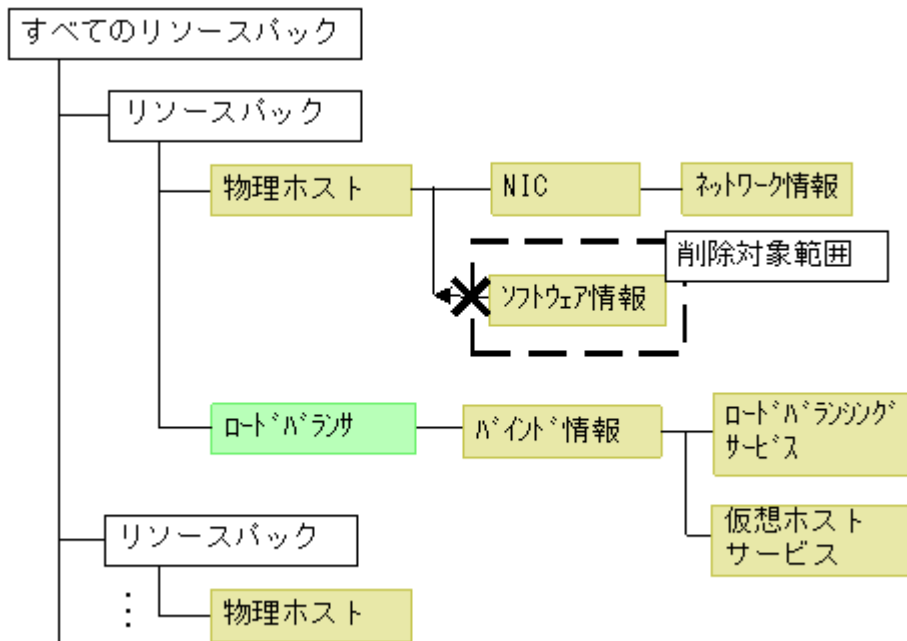
- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

削除規則

- 同時に複数のソフトウェアを削除できません。

ソフトウェアの削除時の削除対象範囲を次に示します。



(d) 物理ホストへのソフトウェアの割り当て

物理ホストへのソフトウェアの割り当てについて説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で物理ホストにソフトウェアを割り当てることができます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

割り当ての規則

- 物理ホストにソフトウェアを割り当てる場合、物理ホストのプロパティ画面からソフトウェア一覧を表示して割り当てます。
- 物理ホストにソフトウェアを割り当てると、その物理ホストとソフトウェアとのマッピング情報が生成されます。
- 一つの物理ホストに対して、複数のソフトウェアを割り当てることができます。一つの物理ホストに対して、同一のソフトウェアを重複して割り当ててはできません。
- 一つのソフトウェアを複数の物理ホストに対して割り当てることができます。

(e) 物理ホストからのソフトウェアの割り当て解除

物理ホストからのソフトウェアの割り当ての解除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で物理ホストからソフトウェアの割り当てを解除できます。

- インフラ管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限については、「5.1 ユーザーの管理機能」を参照してください。

割り当て解除の規則

- 物理ホストからソフトウェアの割り当てを解除すると、その物理ホストとソフトウェアとのマッピング情報が削除されます。
- 同時に複数の物理ホストとソフトウェアの割り当てを解除できません。

3.2.4 物理構成定義時の注意事項

物理構成定義をする際の各オブジェクト作成時の注意事項について説明します。

(1) 名称のユニーク性

物理構成の各オブジェクトは、オブジェクトの種類が異なっても同一の名称を与えられません。このため、次に示す名称付与規則でオブジェクトのユニーク性を保持します。

●物理ホスト

情報収集機能で作成された物理ホストのオブジェクトには、次の形式で名称が設定されます。

<JP1/SC/Control Manager から収集した場合>

- JP1/SC/Control Manager でホスト名が定義されている場合、そのホスト名が設定されます。
- JP1/SC/Control Manager でホスト名が定義されていない場合、次の形式で設定されます。

PhysicalHost:<先頭に定義されているNIC情報のMACアドレス>

<JP1/NETM/AIM から収集した場合>

- JP1/NETM/AIM でホスト名が定義されている場合、そのホスト名が設定されます。
- JP1/NETM/AIM でホスト名が定義されていない場合、次の形式で設定されます。

PhysicalHost:<先頭に定義されているNIC情報のMACアドレス>

情報収集で与えられた名称を変更すると、次の情報収集時に別オブジェクトとして同一の物理ホストの情報が作成されます。そのため次の注意が必要となります。ユーザーが物理ホストの定義を作成する場合、ユニークなホスト名を指定しなければなりません。

●NIC

情報収集機能で作成された NIC のオブジェクトには、次に示す形式で名称が設定されています。

<JP1/SC/Control Manager から収集した場合>

JP1/SC/Control Manager で定義されている MAC アドレスが設定されます。

<JP1/NETM/AIM から収集した場合>

JP1/NETM/AIM で定義されている MAC アドレスが設定されます。

情報収集で与えられた名称を変更すると、次回の情報収集時に別オブジェクトとして同一の NIC の情報が作成されます。そのため次の注意が必要となります。ユーザーが NIC の定義を作成する場合、ユニークな MAC アドレスを指定しなければなりません。

●ネットワーク情報

情報収集機能で作成されたネットワーク情報のオブジェクトには、次に示す形式で名称が設定されています。

<JP1/SC/Control Manager から収集した場合>

次の形式で設定されます。

<設定されている IP アドレス>:<当該 IP アドレスが定義されている NIC の MAC アドレス>

<JP1/NETM/AIM から収集した場合>

次の形式で設定されます。

<設定されている IP アドレス>:<当該 IP アドレスが定義されている NIC の MAC アドレス>

JP1/IM - View でネットワーク情報の IP アドレスを変更すると、情報収集で与えられた名称も変更されます。この場合、次回の情報収集時に別オブジェクトとしてネットワーク情報が作成されてしまうため、次の注意が必要となります。ユーザーがネットワーク情報の定義を作成する場合、NIC 内でユニークな IP アドレスを指定しなければなりません。

●ロードバランサ

情報収集機能で作成されたロードバランサのオブジェクトには、次に示す形式で名称が設定されています。

<JP1/Cm2/NC から収集した場合>

JP1/Cm2/NC で定義されているスイッチ名が設定されます。

情報収集で与えられた名称を変更すると、次回の情報収集時に別オブジェクトとして同一のロードバランサの情報が作成されてしまうため、次の注意が必要となります。ユーザーがロードバランサの定義を作成する場合、ユニークなスイッチ名を指定しなければなりません。

●ソフトウェア

情報収集機能で作成されたソフトウェアのオブジェクトには、次に示す形式で名称が設定されています。

<JP1/NETM/AIM から収集した場合>

次の形式で設定されます。

<ソフトウェア名称>:<バージョン情報>

JP1/IM - View でソフトウェア名称およびバージョン情報を変更すると、情報収集で与えられた名称も変更されます。この場合、次回の情報収集時に別オブジェクトとしてソフトウェアの情報が作成されてしまうため、次の注意が必要となります。ユーザーがソフトウェアの定義を作成する場合、ソフトウェア名称とバージョン情報の組でユニークとなる値を指定しなければなりません。

(2) 使用できない名称

物理構成の各オブジェクトをグルーピングするために、JP1/IM - CM は標準で次のグループオブジェクト群を用意しています。

- **リソースプール**

リソース全体を管理するグループです。

- **カテゴリ**

リソースプールを、次に示す情報で分類するためのグループです。

- **ハードウェア種別**

物理ホストとロードバランサの種類の違いで分類します。

- **サブネット**

物理ホストに定義されているネットワーク情報のサブネットアドレス単位で分類します。

- **シャーシ ID**

BladeSymphony のブレードサーバが搭載されているシャーシごとに分類します。

上記の各グループオブジェクトは、JP1/IM - CM のインストール時に次の名称で自動的に作成されます。

そのため、これらの名称は物理構成のオブジェクト名に使用できません。

- ResourcePool
- SubNet
- HardwareType
- EBS
- PhysicalHost
- LoadBalancer

また、次に示す値も、物理構成のオブジェクト名には使用できません。

- 物理ホストのネットワーク情報で定義された IP アドレスのサブネット値
IP アドレスとサブネットマスクから取得するサブネット値を名称として持つグループを、「サブネット」のカテゴリグループのサブグループとして、システムが自動的に生成します。
- BladeSymphony のブレードサーバが搭載されているシャーシ ID
ブレードサーバが搭載されているシャーシ ID を名称として持つグループを、「シャーシ ID」のカテゴリグループのサブグループとして、システムが自動的に生成します。

上記の名称を持つサブグループのオブジェクトは、情報収集および JP1/IM - View の GUI での物理リソースの作成時にシステムで自動的に作成されます。

3.3.1 論理システムとリソースパックの割り当て

論理システムとリソースパックの割り当て機能は、論理システムとリソースパックのマッピング情報を定義します。

(1) 論理システムとリソースパックの割り当てと定義方法

論理システムとリソースパックの割り当て機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-39 論理システムとリソースパックの割り当て機能一覧

項番	機能	定義方法*		
		GUI	情報収集	インポート
1	論理システムへのリソースパックの割り当て	○	—	—
2	論理システムからのリソースパックの割り当て解除	○	—	—

(凡例)

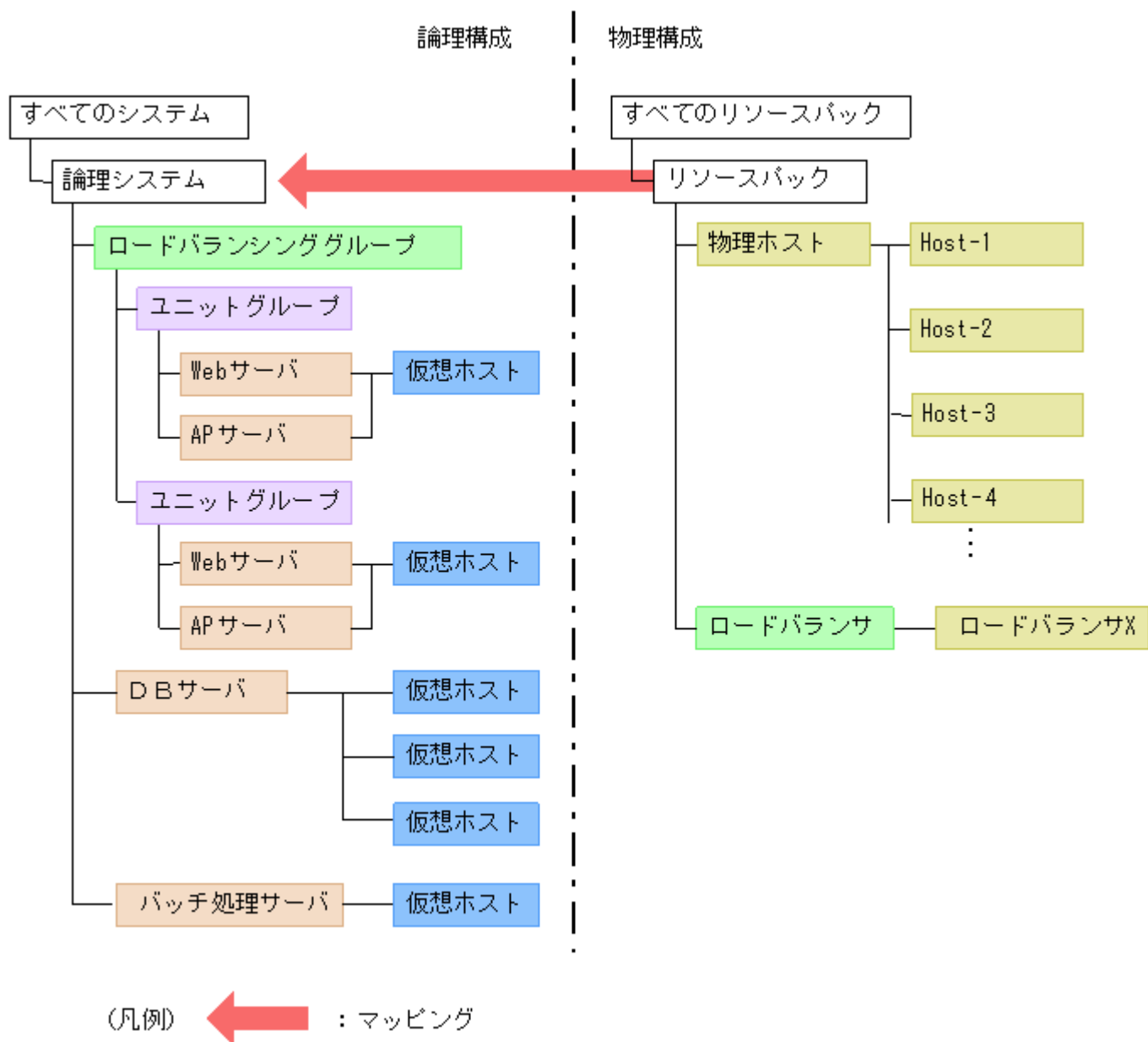
○:定義できる

—:定義できない

注※ GUI, 情報収集, インポートの定義方法については、「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

(2) 論理システムへのリソースパックの割り当て

論理システムへのリソースパックの割り当てについて説明します。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムにリソースパックを割り当てできます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システム、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムです。また、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

割り当ての規則

- 論理システムにリソースパックを割り当てると、論理システムとリソースパックのマッピング情報が生成されます。
- 一つの論理システムに対して一つのリソースパックを割り当てます。

(3) 論理システムとリソースパックの割り当て解除

論理システムとリソースパックの割り当ての解除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理システムとリソースパックの割り当てを解除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システム、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムです。また、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパック、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックです。

割り当て解除の規則

- 論理システムとリソースパックの割り当てを削除する場合、論理システムのすべての仮想ホストとリソースパック内の物理リソースの割り当てが解除されていなければなりません。
- 同時に複数の論理システムとリソースパックの割り当てを解除できません。

3.3.2 論理オブジェクトと物理リソースの割り当て

論理オブジェクトと物理リソースの割り当て機能は、論理システム内に定義された論理オブジェクトと、論理システムに割り当てられたリソースパック内の物理リソースのマッピング情報を定義します。

(1) 論理オブジェクトと物理リソースの割り当てと定義方法

論理オブジェクトと物理リソースの割り当て機能と定義方法を次の表に示します。

表 3-40 論理オブジェクトと物理リソースの割り当て機能一覧

項番	機能	定義方法 ^{※1}		
		GUI	情報収集	インポート
1	ロードバランシンググループとロードバランサのマッピング定義 ^{※2}	—	—	—
2	仮想ホストと物理ホストのマッピング定義	○	—	—
3	仮想ホストと物理ホストのマッピング解除	○	—	—

(凡例)

○: 定義できる

—: 定義できない

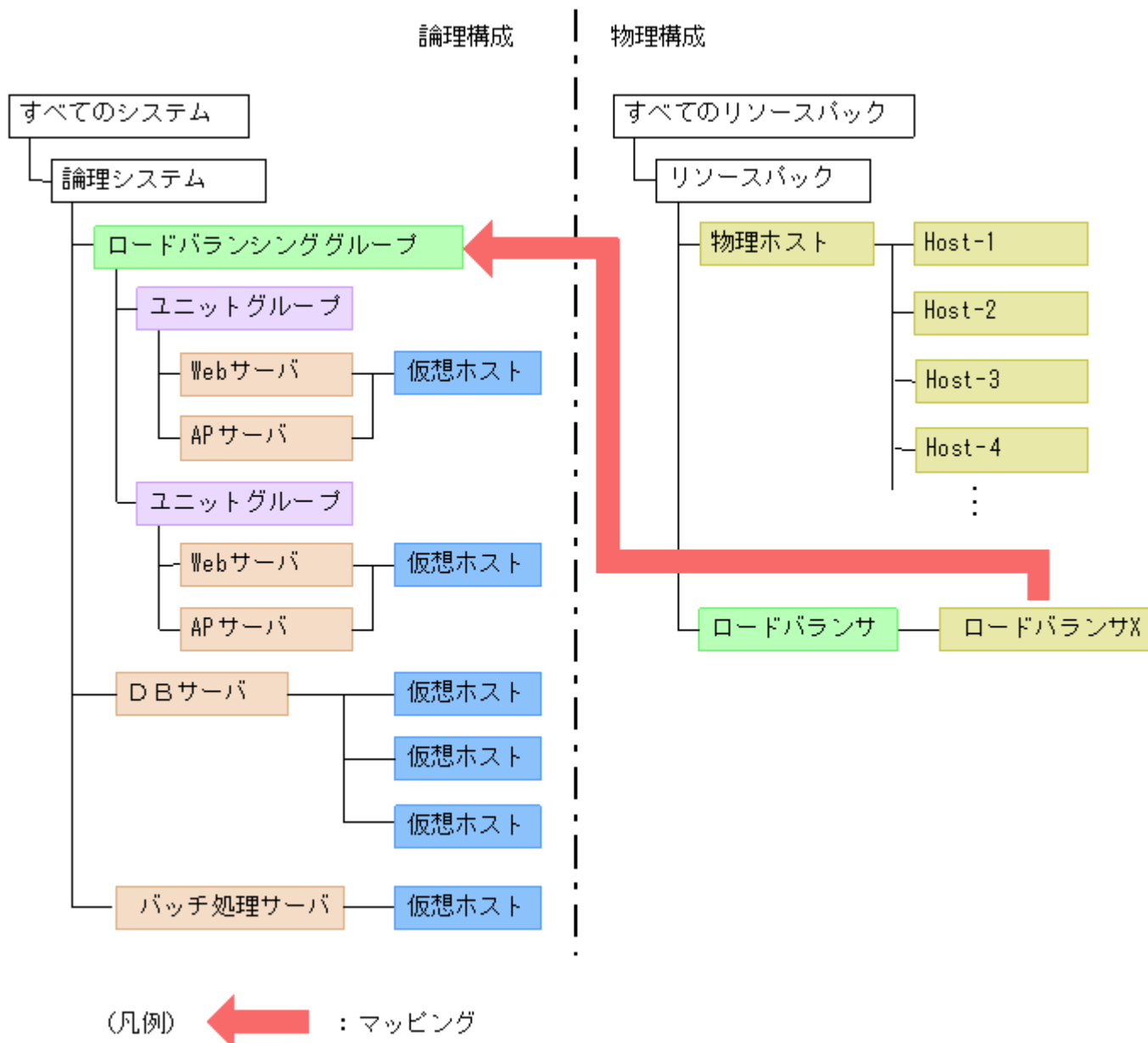
注※1 GUI, 情報収集, インポートの定義方法については, 「3.1.2 構成情報の定義方法」を参照してください。

注※2 マッピング情報は定義されませんが, エクスポート時に自動的にマッピングされます。

(2) ロードバランシンググループとロードバランサの割り当て

ロードバランシンググループとロードバランサの割り当てについて説明します。

ロードバランシンググループとロードバランサの割り当てからは, Cosminexus Smart Composer が生成したロードバランサと論理 Web サーバの関係がわかります。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは, アクセス権限が設定された範囲でロードバランシンググループと, システムに割り当てられたリソースパック内のロードバランサの割り当てを定義できます。

- 業務管理者権限

- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されている論理システムに定義されたロードバランシンググループ、または JP1 資源グループ名が設定されていない論理システムに定義されたロードバランシンググループです。また、ユーザーに設定されている JP1 資源グループ名と同じ JP1 資源グループ名が設定されているリソースパックに割り当てられたロードバランサ、または JP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックに割り当てられたロードバランサです。

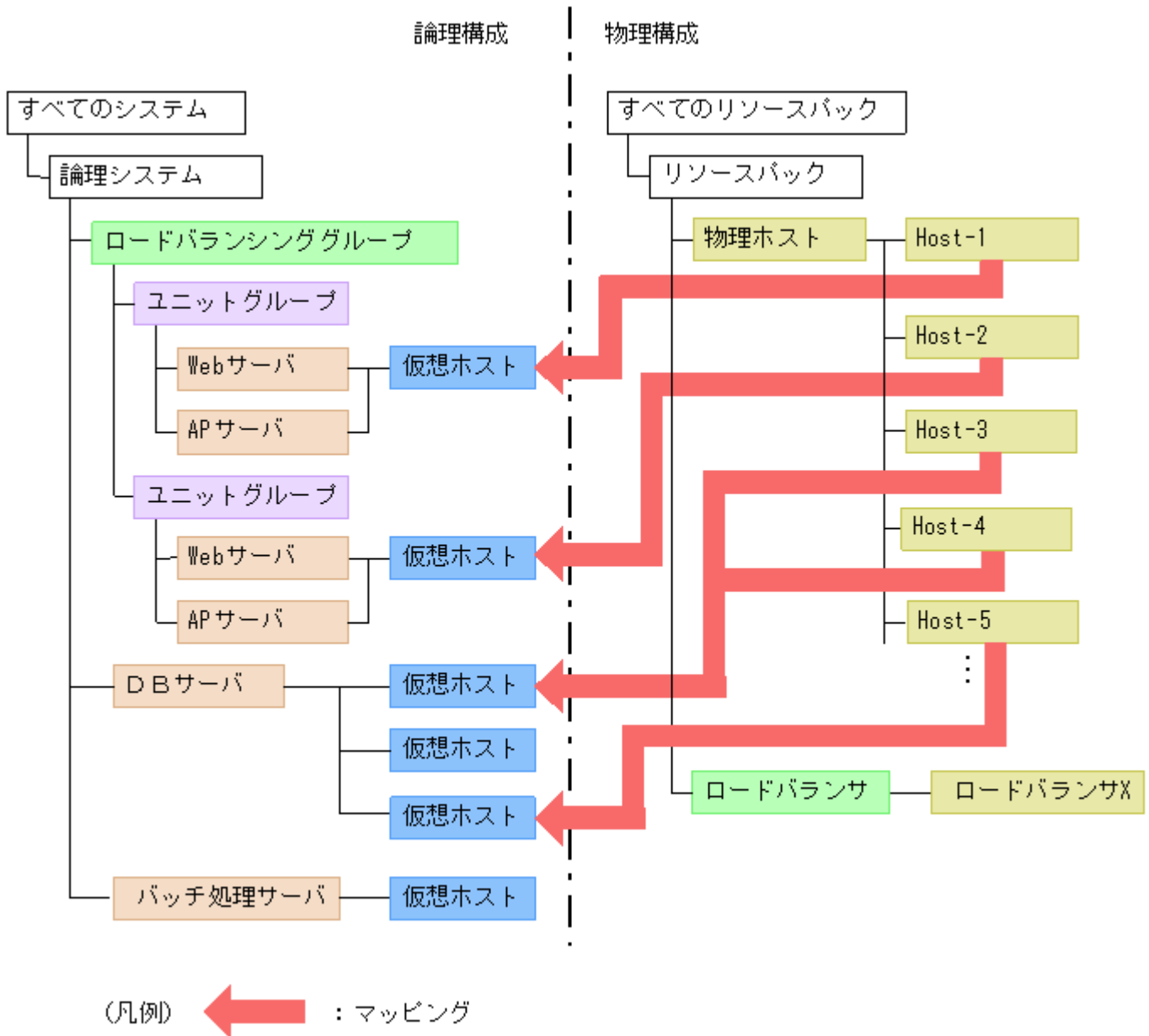
マッピング定義の規則

- ロードバランシンググループとロードバランサの割り当ては、ロードバランシンググループの種別に「ロードバランサ」が指定されており、かつロードバランシンググループの仮想 IP アドレスと等しい仮想 IP アドレスを持つロードバランサの要件を満たす場合となります。そのため、割り当てする際には、ロードバランシンググループの種別と仮想 IP アドレスをキーに、リソースパック内を検索し、該当するロードバランサを絞り込みます。
- ロードバランサの絞り込みは、Cosminexus Smart Composer の初期構築ファイルの出力時に `jcmexport` コマンド内で実行します。なお、ロードバランシンググループとロードバランサのマッピング情報は生成しません。

(3) 仮想ホストと物理ホストの割り当て

仮想ホストと物理ホストの割り当てについて説明します。

仮想ホストと物理ホストのマッピング情報からは、論理サーバまたはプロセスに定義されている仮想ホストと、実際の物理ホストの関係がわかります。ある物理ホストに定義されているマッピング情報から、その物理ホストに障害が発生した場合の影響度の範囲(どの論理システムに影響があるか)もわかります。



アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で仮想ホストと、システムに割り当てられたリソースパック内の物理ホストの割り当てを定義できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは、ユーザーに設定されているJP1 資源グループ名と同じJP1 資源グループ名が設定されている論理システムに定義された仮想ホスト、またはJP1 資源グループ名が設定されていない論理システムに定義された仮想ホストです。また、ユーザーに設定されているJP1 資源グループ名

と同じJP1 資源グループ名が設定されているリソースパックに割り当てられた物理ホスト, またはJP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックに割り当てられた物理ホストです。

マッピング定義の規則

- 仮想ホストと物理ホストのマッピング定義は, 仮想ホストに定義されているホスト名, IP アドレス, OS 名, CPU, メモリーなどの要件を満たす物理ホストとなります。
- 割り当てする際には, 仮想ホストの属性情報をキーにリソースパック内を検索し, 該当する物理ホストを絞り込みます。
- 仮想ホストと物理ホストのマッピングを定義すると, 仮想ホストと物理ホストのマッピング情報が生成されます。
- マッピング定義の操作は次の場合に行えます。
 - 一つの仮想ホストとリソースパック内の一つの物理ホストに対して
 - 一つの仮想ホストとリソースパック内の複数の物理ホストに対して
 - リソースパック内の一つの物理ホストと複数の仮想ホストに対して

(4) 仮想ホストと物理ホストの割り当て解除

仮想ホストと物理ホストの割り当て解除について説明します。

アクセス権限

次の操作権限を持つユーザーは, アクセス権限が設定された範囲で仮想ホストと物理ホストの割り当てを解除できます。

- 業務管理者権限
- システム管理者権限

アクセス権限が設定された範囲とは, ユーザーに設定されているJP1 資源グループ名と同じJP1 資源グループ名が設定されている論理システムに定義された仮想ホスト, またはJP1 資源グループ名が設定されていない論理システムに定義された仮想ホストです。また, ユーザーに設定されているJP1 資源グループ名と同じJP1 資源グループ名が設定されているリソースパックに割り当てられた物理ホスト, またはJP1 資源グループ名が設定されていないリソースパックに割り当てられた物理ホストです。

マッピング解除の規則

- 仮想ホストと物理ホストの割り当てが解除されると, 仮想ホストと物理ホストのマッピング情報だけが削除されます。
- 一つの仮想ホストに対して, 複数の物理ホストを同時に, 割り当ての解除ができます。

3.4 構成情報の収集

JP1/IM - CMと連携するプログラムから論理構成の定義情報や物理構成の定義情報を収集し、構成管理DBに情報を格納します。ここでは、構成情報収集機能について説明します。

次に JP1/IM - CMと連携するプログラムと収集する情報の一覧を示します。

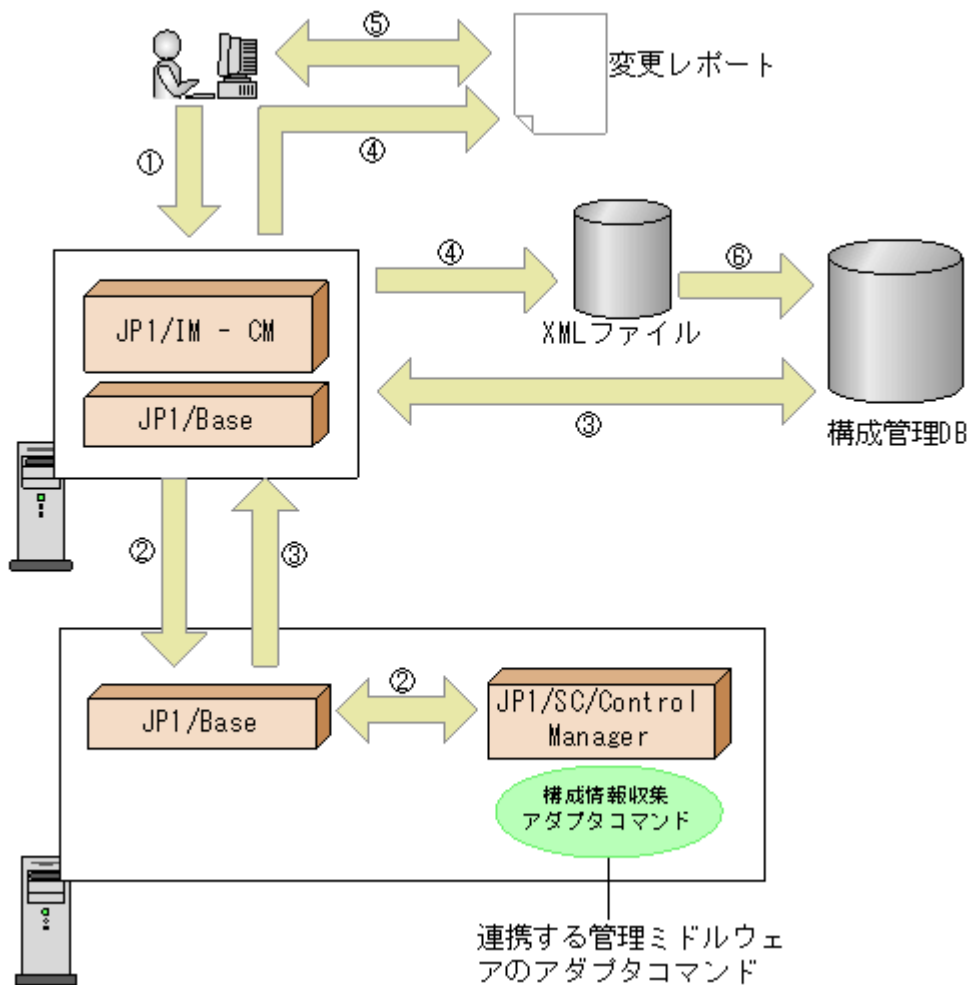
表 3-41 連携するプログラムと収集する情報

項番	連携するプログラム	収集する情報
1	Cosminexus	論理構成定義
2	JP1/SC/Control Manager	物理構成定義
3	JP1/NETM/AIM	物理構成定義
4	JP1/Cm2/NC	物理構成定義
5	HiRDB	論理構成定義

(1) 構成情報収集の流れ

JP1/IM - CM では、JP1/Base が提供するプラグインサービス機能とアダプタコマンド実行機能を使用して、連携対象のプログラムが管理するオブジェクト情報を取得します。

次に JP1/IM - CMと連携するプログラムのプラグインサービスおよびアダプタコマンド利用時の流れを図に示します。例として、JP1/SC/Control Manager との連携で説明します。



図中の番号に従って説明します(図中の丸付き番号は、下記番号にそれぞれ対応しています)。

1. ユーザーが情報収集コマンド(jcmgetinfo)を実行します。
情報収集コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス jcmgetinfo」(2. コマンド)を参照してください。
2. JP1/Base のプラグイン API を使用して連携するプログラムの構成情報収集アダプタコマンドを起動します。
3. 構成情報収集アダプタコマンドの出力結果と構成管理 DB 内の情報との比較をします。
4. 比較結果を変更レポートとしてファイルに出力します。また、アダプタコマンドの出力結果は、jcmimport コマンドで使用できる XML 形式ファイルで出力します。
5. ユーザーは、変更レポートで変更内容を確認し、構成情報の収集結果を構成管理 DB に反映するかどうかを判断します。

判断基準:

論理構成定義の場合、Web 推奨モデルのウィザードで定義した論理システムと Cosminexus から収集した情報に差異があれば、論理構成定義に反映させるか、または Cosminexus でシステムを構築し直してから再度情報収集をします。

物理構成定義の場合は無条件に反映します。

6. ユーザーは、情報収集コマンドが出力した XML ファイルを jcmimport コマンドを使用して、構成情報を構成管理 DB に反映します。

jcimport コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management – Central Information Master リファレンス jcimport」(2. コマンド)を参照してください。

(2) 構成情報収集時の注意事項

構成情報収集時の注意事項について説明します。

- 構成情報収集で収集した構成情報を JP1/IM – View で変更する場合、収集元のオブジェクト情報と整合性を保って変更してください。整合性が保たれていない場合、JP1/AJS2 – SO のシナリオ実行時などにエラーとなるときがあります。構成情報収集で収集した情報を変更する場合は、収集元のプログラムで構成情報を変更したあとで、再度、構成情報収集を実行してください。
- Cosminexus の Web システム名は、システム内にあるすべてのドメインでユニークになっている必要があります。異なるドメイン間で同一の Web システム名がある場合、先に収集された Web システム名が有効となります。
- Cosminexus から論理構成を収集する場合、Cosminexus 側の定義で Web システム名、ユニット名、仮想サーバ名、および運用ホスト名は、Web システム内でユニークとなるようにしてください。これらの名称がユニークでない場合、情報収集時にエラーとなり、情報収集できません。
- JP1/SC/Control Manager および JP1/NETM/AIM の両方のプログラムから物理ホストの情報を収集する場合、同一の物理ホストには同一のサーバ名を設定してください。サーバ名が異なっている場合、JP1/IM – CM では、それぞれを別の物理ホストとして扱います。また、「3.2.4(2) 使用できない名称」が、サーバ名に設定されている場合、構成情報収集時にエラーとなり、情報収集できません。
- JP1/IM – CM で管理するデータモデルと、連携対象のプログラムが管理するオブジェクト情報は文字数の制限が異なる場合があります。このため、構成情報収集を実行する前に、連携対象のプログラムが管理するオブジェクトが以下の制限値を満たしていることを確認してください。特に、オブジェクトに日本語などのマルチバイト文字を含んでいる場合は、注意が必要です。次の表に示す制限値を超えている場合、構成情報収集時にエラーとなり、情報収集できません。

表 3-42 収集対象オブジェクトの制限値

項番	連携するプログラム	対象オブジェクト	制限値
1	Cosminexus	Web システム名	30 バイト
		Web システム表示名	511 バイト
		ロードバランサ名	32 バイト
		ロードバランサ表示名	511 バイト
		ユニット名	32 バイト
		ユニット表示名	511 バイト
		仮想サーバ名	32 バイト
		仮想サーバ表示名	511 バイト
		運用ホスト名	32 バイト
		運用ホスト表示名	511 バイト

2	JP1/SC/Control Manager	サーバ名	511 バイト
		モデル名	255 バイト
		シャーシの製造番号	255 バイト
		OS の名称	255 バイト
		OS のバージョン	255 バイト
		N+1 グループ名	255 バイト
3	JP1/NETM/AIM	サーバ名	511 バイト
		モデル	255 バイト
		OS の名称	255 バイト
		OS のバージョン	255 バイト
		ソフトウェアの名称	255 バイト
		ソフトウェアのバージョン	255 バイト
4	JP1/Cm2/NC	スイッチ名	255 バイト
		モデル名	255 バイト
5	HiRDB	HiRDB ニックネーム	127 バイト
		サーバ名	511 バイト
		ホスト名	127 バイト

4.1 構成情報の検索

構成情報検索機能を使用して、論理構成定義、物理構成定義、およびマッピング定義の情報を検索できます。検索は、例えば「旅費精算システムの AP サーバ」というように、ユーザーの視点のキーワードを使用することができます。

構成情報の検索は、問い合わせコマンド(jcmobjsearch)を使用します。また、問い合わせコマンドは、JP1/IM - CMと連携する JP1/AJS2 Agent および JP1/Base から検索条件を指定して検索できます。

- **論理構成定義情報の検索**

すべてのユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で論理構成情報の検索ができます。指定できる検索条件は、論理構成定義情報の論理オブジェクトを UROI で指定します。

- **物理構成定義情報の検索**

すべてのユーザーは、アクセス権限が設定された範囲で物理構成情報の検索ができます。また、指定できる検索条件は、物理構成定義情報の物理オブジェクトを UROI 形式で指定します。

- **マッピング定義情報の検索**

すべてのユーザーは、アクセス権限が設定された範囲でマッピング定義情報の検索ができます。指定できる検索条件は、物理構成定義情報の物理オブジェクトを UROI 形式で指定します。

問い合わせコマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス jcmobjsearch」(2. コマンド)を参照してください。

4.1.1 検索条件の指定方法

JP1/IM - CM が規定したデータモデルで管理されているオブジェクトに対して、外部からオブジェクトを特定する際に必要な識別子を用いて検索します。オブジェクトの識別子を UROI といいます。UROI は、WWW アドレスである URL のような文字列の表現で指定します。指定には、次に示す 2 とおりの指定方法があります。データモデルについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス 付録 A データモデル」を参照してください。

- 一意識別子を用いた指定方法
- データモデルの階層を用いた指定方法

(1) UROI の指定

UROI は次の形式で指定します。

指定種別://識別文字列

それぞれの要素について説明します。

指定種別

指定種別は、[id (identification)] または [hdm (hierarchical data model)] の 2 種類が指定できます。

[id] は、JP1/IM - CM のオブジェクトを特定します。インスタンス識別子を指定して、オブジェクトを操作する場合に使用します。

[hdm] は、データモデルの階層を用いてオブジェクトを検索する場合に使用します。

識別文字列

識別文字列は、オブジェクトを指定するための文字列を指定します。識別種別によって、指定方法が異なります。識別種別による指定方法について、次に示します。

インスタンス識別名を用いた指定方法 (指定種別が [id] の場合)

「**クラス名.インスタンス識別文字列**」の形式で指定します。

クラス名には、JP1/IM - CM で管理しているデータモデルのクラス名を指定します。

インスタンス識別文字列には、オブジェクトのインスタンス識別子を指定します。

データモデルの階層を用いた指定方法 (指定種別が [hdm] の場合)

「**レイヤー種別.オブジェクト名.オブジェクト名...**」の形式で指定します。

レイヤー種別は、JP1/IM - CM が扱う階層を指定します。論理構成の場合は [logical]、または物理構成の場合は [physical] のどちらかを指定してください。

オブジェクト名は、階層順序に従ってデータモデルの DisplayName プロパティの値を「.」区切りで並べて記述します。オブジェクト名に「*」を指定すると、その階層のすべてのオブジェクトが対象となります。「*」を指定できるのは、階層指定の最下位の階層だけです。

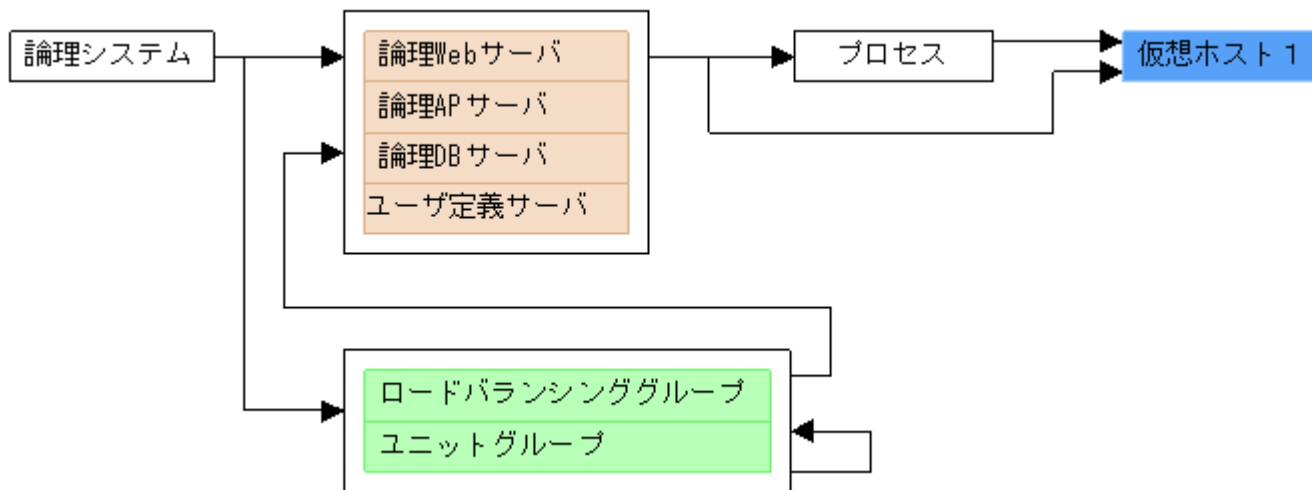
UROI の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス jcmobjsearch」(2. コマンド)を参照してください。

(2) データモデルの階層を用いた UROI の指定

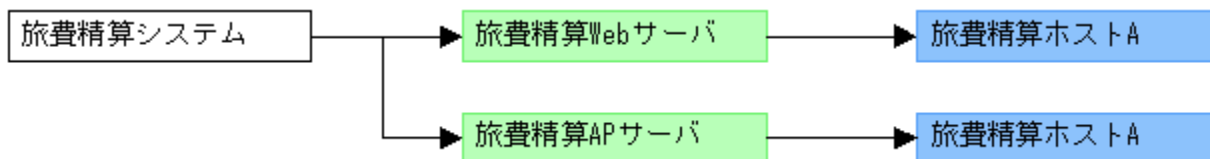
論理構成および物理構成のデータモデルの階層を用いた UROI の指定について説明します。

(a) 論理構成の UROI の指定

論理構成の階層順序を次の図に示します。矢印の順番でオブジェクト名を指定します。



論理構成の階層例を次の図に示します。

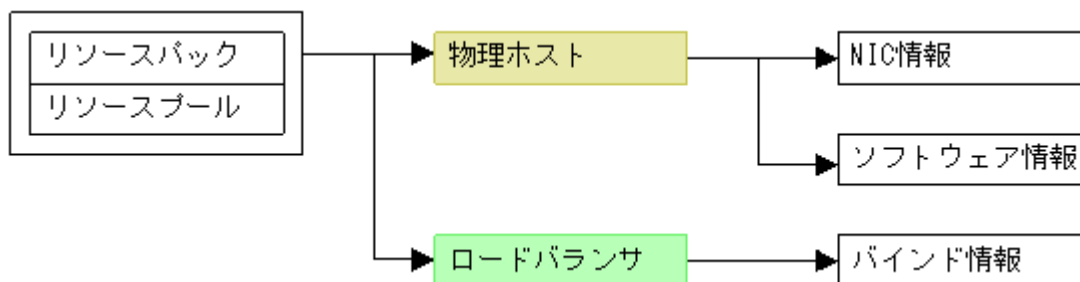


上記の図の旅費精算ホスト A を指定する場合、次のように指定します。

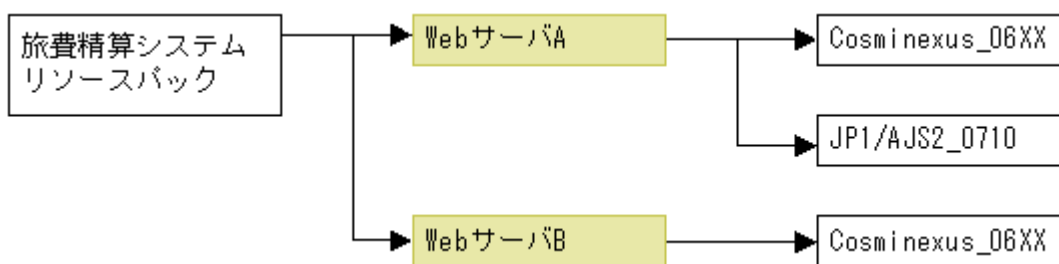
logical.旅費精算システム.旅費精算 Web サーバ.旅費精算ホスト A

(b) 物理構成の UROI の指定

物理構成の階層順序を次の図に示します。矢印の順番でオブジェクト名を指定します。



物理構成の階層例を次の図に示します。



上記の図の Cosminexus_06xx を指定する場合、次のように指定します。

physical.旅費精算システムリソースパック.Web サーバ A.Cosminexus_06xx

4.2 構成情報のインポート・エクスポート

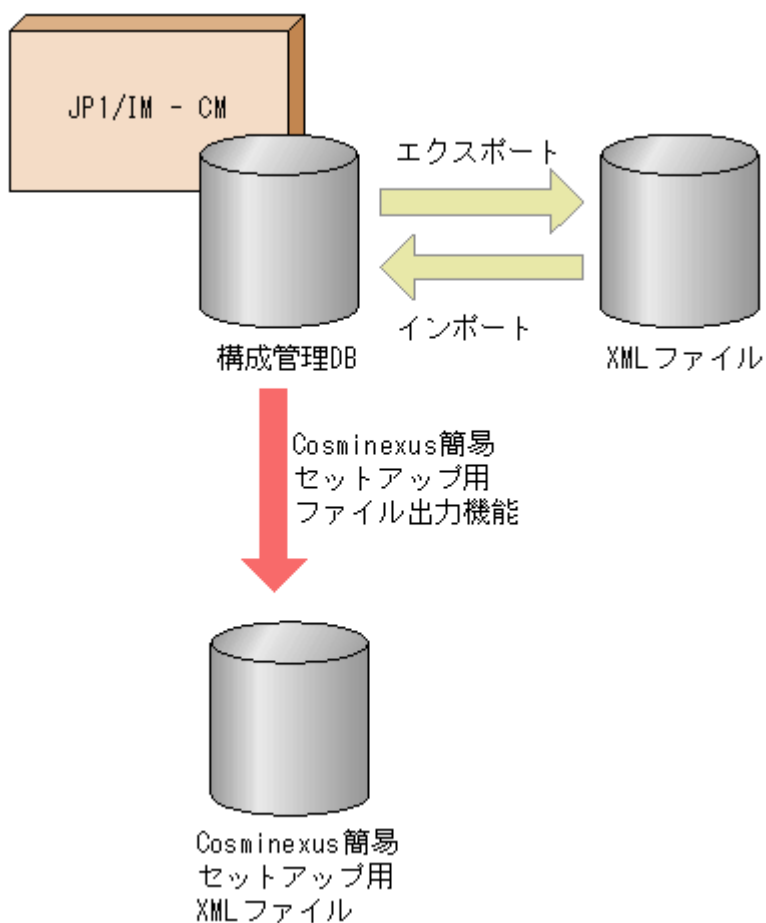
JP1/IM - CM が提供する構成情報のインポート・エクスポート機能について説明します。構成情報のインポート・エクスポートは、構成管理 DB 内に管理されているシステム構成情報のバックアップおよびリストアに使用します。別のシステムでは、システム情報の一括定義などにも使用できます。

エクスポート機能は、JP1/IM - CM が管理するシステム構成情報を XML 形式で出力します。インポート機能は、エクスポート形式のデータを外部から入力データとして受け取り、JP1/IM - CM 内部のシステム構成管理情報を非対話的に更新します。

また、Cosminexus 用の機能として、Cosminexus の簡易構築・運用に必要な構成情報を出力する「Cosminexus Smart Composer 用のファイル出力機能」があります。

次にインポート・エクスポート機能概要を図に示します。

図 4-1 インポート・エクスポート機能の概要

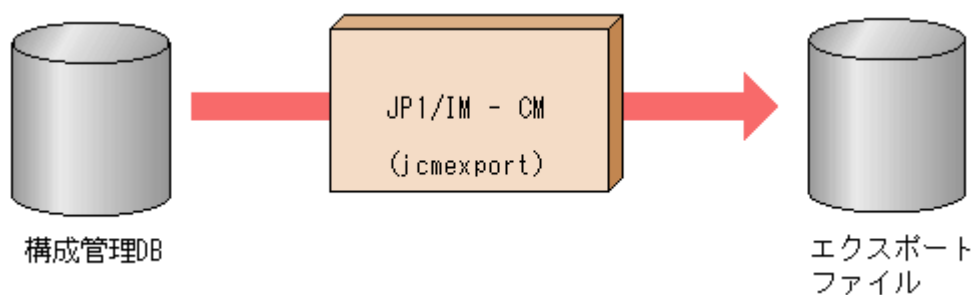


4.2.1 構成情報のエクスポート

JP1/IM - CM が管理する構成管理 DB 内のシステム構成情報を XML 形式で出力します。エクスポート機能は、次のような用途に使用できます。

- 構成情報のバックアップ、およびスナップショットの保存
- インポート用の構成情報のひな形作成
- Cosminexus Smart Composer 初期構築用の構成情報の出力
Cosminexus Smart Composer 用の構成情報については、「4.2.3 Cosminexus Smart Composer 用ファイル」を参照してください。

エクスポート機能の概略を次に示します。



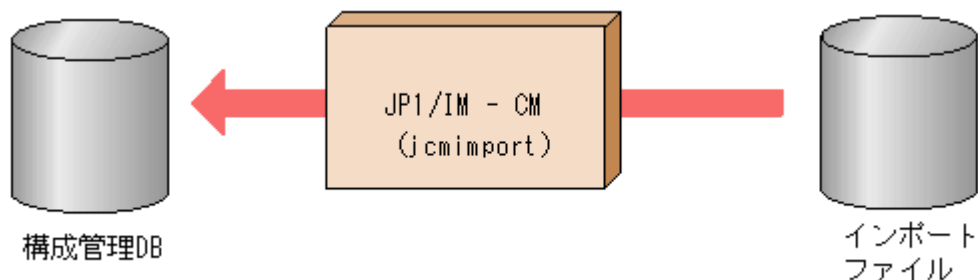
- エクスポート機能の対象となるのは、論理構成定義、物理構成定義、およびマッピング定義の情報です。
- エクスポート機能を実行する場合、対象となる構成管理情報へのアクセス権限が必要です。アクセス権については、「付録 E 操作権限一覧」を参照してください。

4.2.2 構成情報のインポート

構成情報のインポート機能は、エクスポート機能で出力した XML 形式のファイルを入力として、構成管理 DB にシステム構成情報を格納(復元)します。インポート機能は、次のような用途に使用できます。

- 構成情報のバックアップ、スナップショットの復元
- 構成情報の一括登録
- テスト用環境の構築

インポート機能概略図を次に示します。

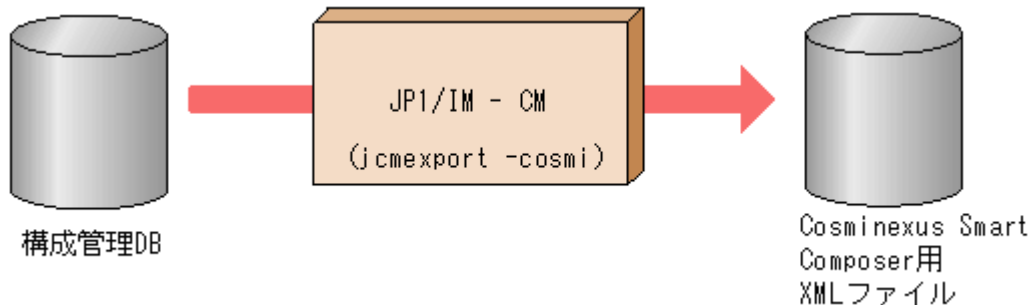


- インポート時に入力する XML ファイルの構成情報は、構成管理 DB 上に構築する構成情報の一部、またはすべてのどちらでもかまいません。どのように反映するかは、jcmimport コマンドの引数で指定します。
- インポート機能は、システム管理者権限を持っているユーザーだけが実行できます。システム管理者権限については、「付録 E 操作権限一覧」を参照してください。

4.2.3 Cosminexus Smart Composer 用ファイル

構成管理 DB 内の論理構成情報を Cosminexus Smart Composer 用として XML 形式のファイルで出力します。Cosminexus Smart Composer 用ファイルは、Cosminexus 06-50 以降の簡易構築および運用を支援するためのファイルです。

Cosminexus Smart Composer 用ファイル出力機能の概略を次に示します。



- Cosminexus は、簡易構築または運用機能として、Web システムの初期構築または構成変更を一括して処理するコマンドを提供しています。
- JP1/IM - CM では、構成管理 DB から論理構成定義の情報となる XML 形式のファイル(データ)を生成します。
- Cosminexus では、生成する XML ファイルの形式を規定しています。規定しているファイルは次に示す二つのファイルです。
 - 初期構築用の XML フォーマット
新規に Cosminexus の Web システムを構築するための XML フォーマットです。
 - 構成変更用の XML フォーマット
初期構築用の XML フォーマットで構築された、Web システムの構成を変更するための XML フォーマットです。JP1/IM - CM の「Cosminexus Smart Composer 用ファイル出力機能」では、構成変更用の XML フォーマットは出力しません。
- コマンドの実行時は、論理構成定義情報にアクセスできる業務管理者権限、あるいはシステム管理者権限を持っているユーザーが対象となります。業務管理者権限およびシステム管理者権限については、「付録 E 操作権限一覧」を参照してください。

次に、Cosminexus Smart Composer 用ファイル出力機能の対象となるユーザー権限を示します。

表 4-1 Cosminexus Smart Composer 用ファイル出力機能のユーザー権限

ユーザー権限	コマンド実行	備考
システム管理者権限	○	すべての Web システム情報が対象
業務管理者権限	○	アクセスできる Web システム情報が対象
インフラ管理者権限	×	—

(凡例)○:実行可 ×:実行不可 —:なし

(1) Cosminexus Smart Composer 用ファイルの規則

JP1/IM - CM の「Web 推奨モデル」で定義した論理システムの構成内容から、Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力します。Cosminexus Smart Composer 用ファイルは、jcmexport コマンドの -cosmi オプションを指定すると出力されます。

jcmexport コマンドの -cosmi オプションについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス jcmexport」(2. コマンド)を参照してください。

Cosminexus Smart Composer 用ファイルの出力時に、論理システムに対して JP1/IM - CM が規定する「Web 推奨モデル」の規定範囲であるかどうかをチェックします。次に示すチェックでエラーとならなかった場合だけ、Cosminexus Smart Composer 用ファイルが出力されます。エラーとなった場合は、エラーメッセージを出力し、jcmexport コマンドを終了します。

論理システムに対するチェック

- テンプレートの種別が「Web 推奨モデル」であること
 - Cosminexus 管理名が指定されていること
 - 下位にロードバランシンググループが一つだけ定義されていること
- なお、下位にロードバランシンググループ以外の論理オブジェクトがある場合は、その情報は無視し、処理を続行します。

ロードバランシンググループに対するチェック

- Cosminexus 管理名が指定されていること
 - 種別が「ロードバランサ」であること
 - ポート情報のポート番号が指定されていること
 - 下位にユニットグループが一つ以上あること
- なお、下位にユニットグループ以外の論理オブジェクトがある場合は、その情報を無視して処理を続行します。

ユニットグループに対するチェック

- Cosminexus 管理名が指定されていること
 - 下位に論理 Web サーバ・論理 AP サーバがそれぞれ一つずつあること
- なお、下位に論理 Web サーバ・論理 AP サーバ以外の論理オブジェクトがある場合、その情報は無視して処理を続行します。

論理 Web サーバに対するチェック

- Cosminexus 管理名が指定されていること
- 下位にプロセスが一つだけあること

論理 AP サーバに対するチェック

- Cosminexus 管理名が指定されていること
- 下位にプロセスが一つだけあること

論理 Web サーバ直下にあるプロセスに対するチェック

- ミドルウェア種別で「Cosminexus」が選択されていること
- プロセス種別で「web-server」が選択されていること
- 下位に仮想ホストが一つだけあること

論理 AP サーバ直下に存在するプロセスに対するチェック

- ミドルウェア種別で「Cosminexus」が選択されていること
- プロセス種別で「j2ee-server」が選択されていること
- 下位に仮想ホストが一つだけあること

ユニットグループ内の仮想ホストのマッピングに対するチェック

- 論理 Web サーバ直下のプロセスと論理 AP サーバ直下のプロセスからマッピングされる仮想ホストが同一エントリであること

仮想ホストに対するチェック(論理 Web サーバ・論理 AP サーバ共通)

- Cosminexus 管理名が指定されていること
- 業務用ネットワーク情報の IP アドレスが指定されていること
- 管理用ネットワーク情報の IP アドレスが指定されていること

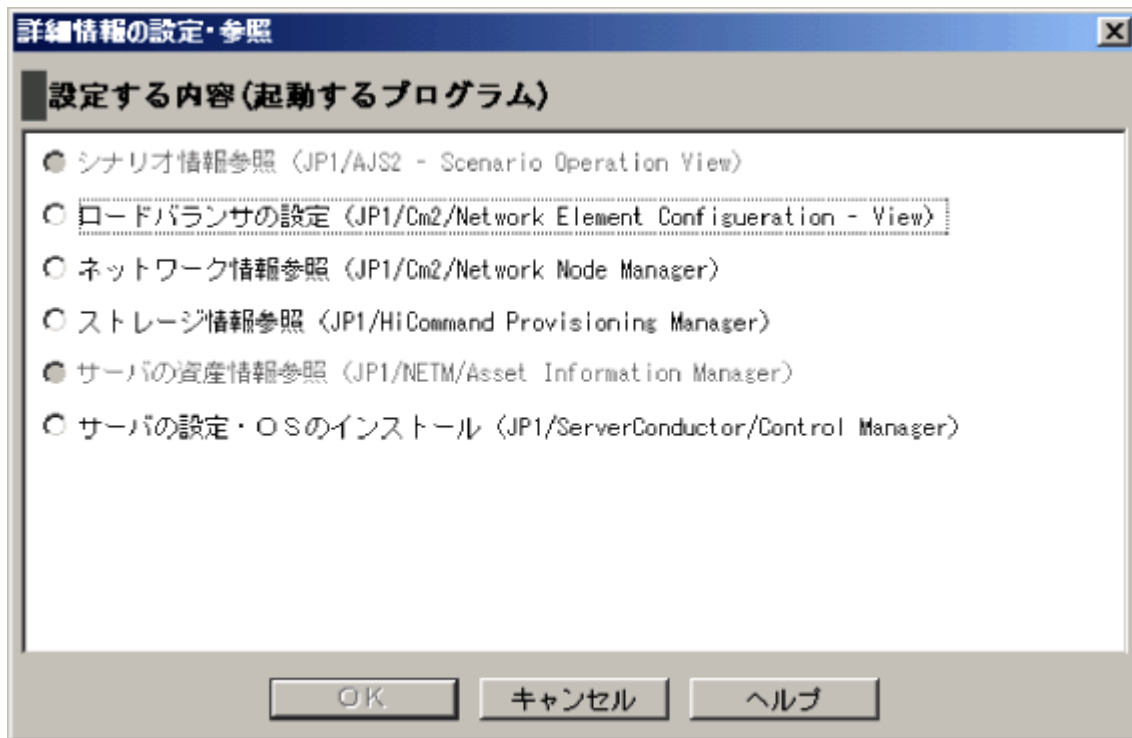
ロードバランサに対するチェック

- デバイス名が指定されていること
- モデル名が指定されていること
- 管理用 IP アドレスが指定されていること

4.3 Link & Launch 機能

JP1/IM - View に表示されるオブジェクトの情報は、連携プログラムから情報収集したものです。そのため、個々のオブジェクトの詳細情報を表示したり、定義内容を変更したりする場合は、連携先のプログラムで操作する必要があります。JP1/IM - View では、連携プログラムの初期画面を起動できるため、詳細情報の参照や設定変更を容易に行うことができます。連携プログラムを起動する画面を、次の図に示します。

図 4-2 連携プログラムを起動する画面



[詳細情報の設定・参照]画面については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス 1.7.1 [詳細情報の設定・参照]画面」を参照してください。

注意事項

- Link & Launch 機能を使用して、ほかの製品と連携する場合には、その製品の稼働環境(サポート OS やブラウザなど)を事前に確認してください。
- [詳細情報の設定・参照]画面から連携先のプログラムを起動する場合、JP1/IM - View を起動した OS ユーザーに、連携先のプログラムの実行権限がないとプログラムは起動できません。また、連携先のプログラムが実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

4.4 監視ツリーの生成

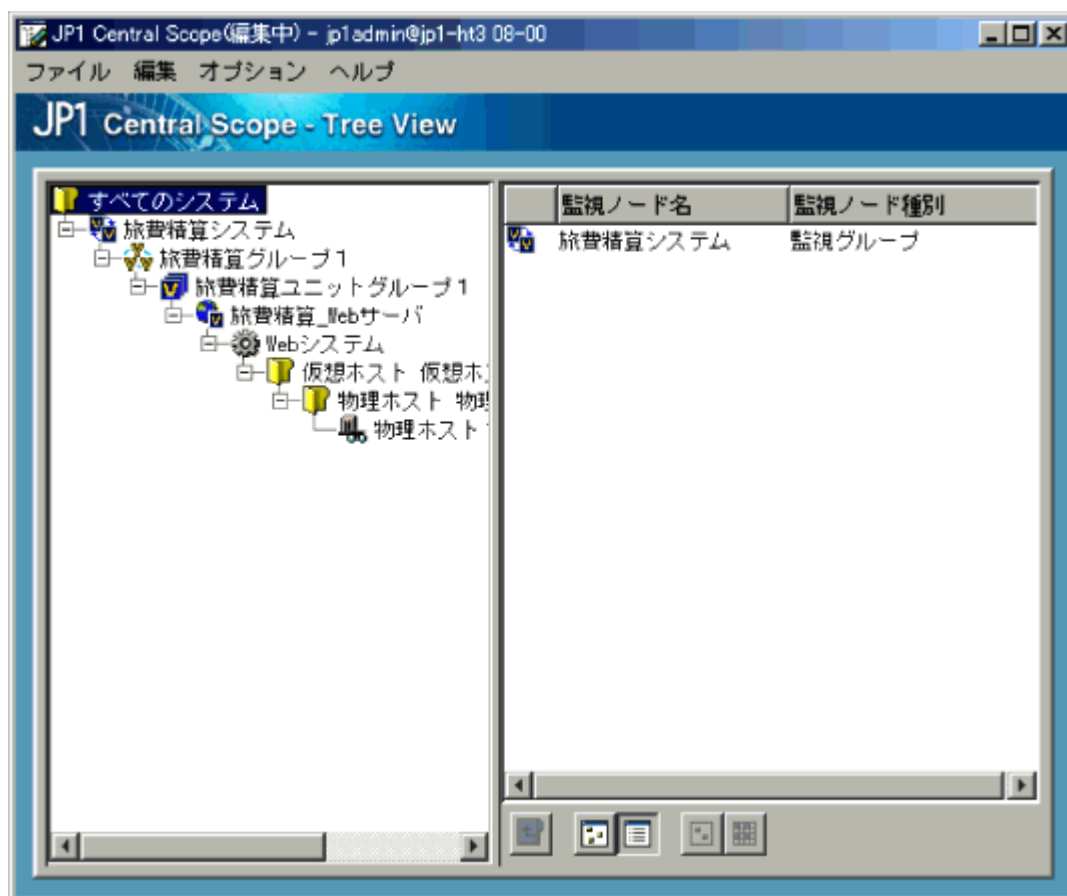
統合スコープでシステムを監視する場合、JP1/IM - CM で定義したシステム定義情報に従って、監視ツリーを自動生成します。システム構成の変更時などは、差分だけを監視ツリーに反映することもできます。次に示す仮想ホストが定義されている場合は、監視ツリーの監視オブジェクトも自動生成されます。

- Cosminexus から収集した仮想ホスト
- HiRDB から収集した仮想ホスト
- 物理ホストがマッピングされている仮想ホスト

なお、監視ツリーを自動生成する場合は、JP1/IM - CM と統合スコープが同一ホスト、または同じ認証圏の別ホストにインストールされている必要があります。JP1/IM - CM と統合スコープの認証圏が異なる場合、監視ツリーを生成できません。

システム定義情報に従って自動生成した監視ツリーを、次の図に示します。

図 4-3 システム定義情報に従って自動生成した監視ツリーの例



統合スコープについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド」を参照してください。

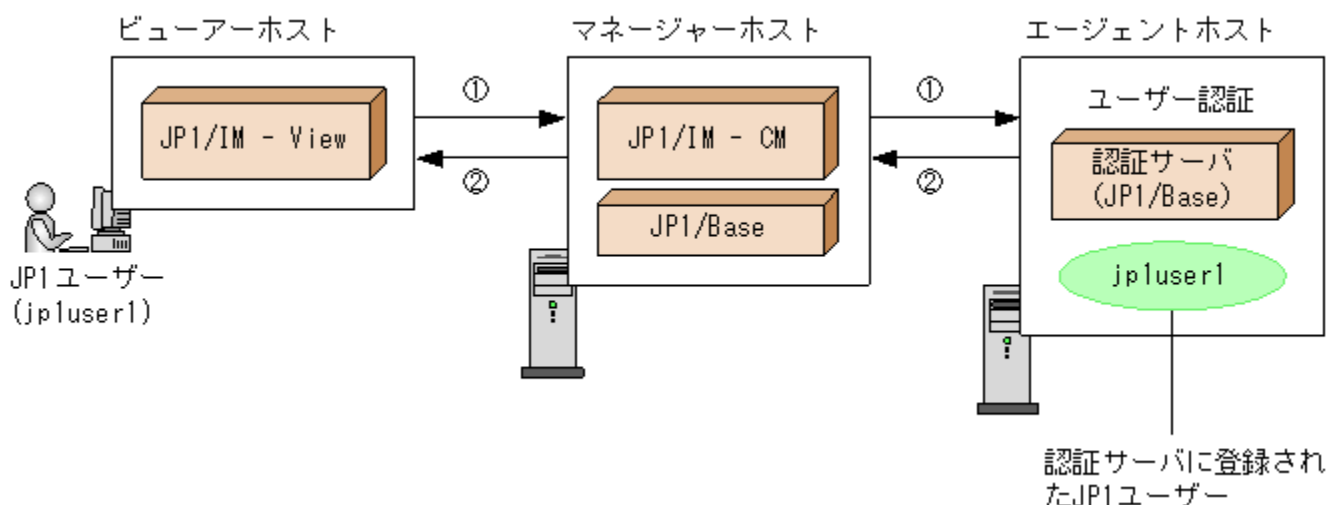
5.1.1 ユーザー認証

JP1/IM - CM では、ビューアーホスト上の JP1/IM - View からマネージャーホスト上の JP1/IM - CM にアクセスしてシステムを管理します。JP1/IM - View から JP1/IM - CM にアクセスする際、不正なユーザーによるアクセスを防止するために、ログイン処理を実行してユーザー認証します。

JP1/IM - CM では、JP1/IM - View から JP1/IM - CM にログインする際に JP1/Base のユーザー認証機能を使用しています。ユーザー認証する JP1/Base を**認証サーバ**と呼びます。

ログインする JP1 ユーザーは、ログイン先の JP1/IM - CM ホストが参照する認証サーバで認証されます。JP1/IM - View から JP1/IM - CM ホストへログインする場合のユーザー認証の流れを次の図に示します。

図 5-1 ユーザー認証の流れ



図中の番号に従って説明します(図中の丸付き番号は下記番号にそれぞれ対応しています)。

1. JP1/IM - View から JP1/IM - CM ホストにログインすると、そのホストの JP1/Base を経由して認証サーバで JP1 ユーザーの認証が行われます。

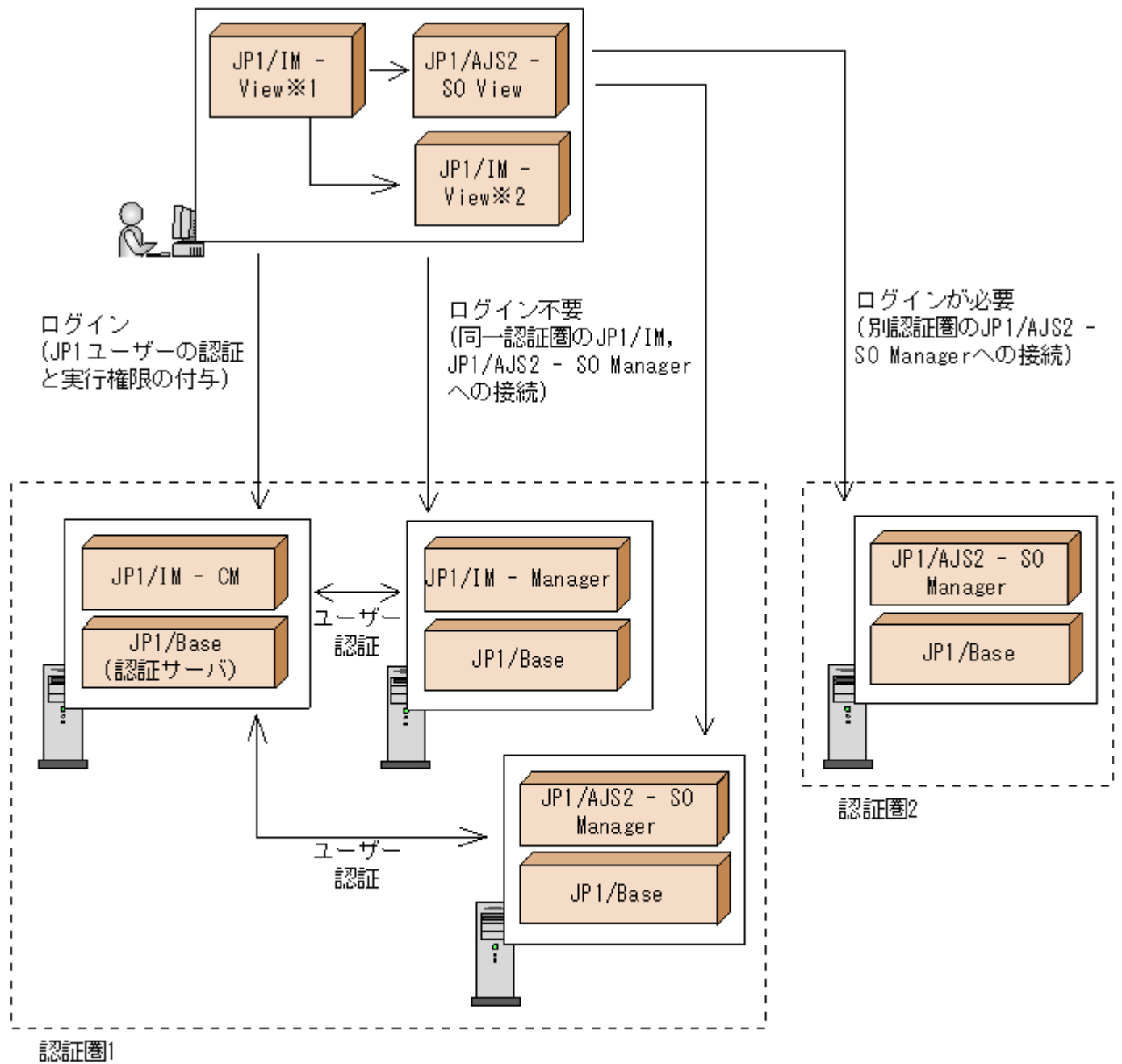
参照する認証サーバの設定は、JP1/IM - CM ホスト上の JP1/Base で行います。

2. 認証サーバでは、ログインしてきた JP1 ユーザーが登録されているかどうかのチェックを行い、問題なければその JP1 ユーザーの操作権限情報を JP1/IM - CM ホストを経由して JP1/IM - View に返します(JP1 ユーザーの操作権限については、「5.1.2 アクセス制御」を参照)。

認証サーバには、ログインする JP1 ユーザーをあらかじめ登録しておく必要があります。

ユーザー認証に同一の認証サーバを参照しているホストの集まりを**認証圏**と呼びます。JP1/IM - View から JP1/AJS2 - SO View の画面を呼び出す場合、次の図に示すように、接続する JP1/AJS2 - SO Manager が同じ認証圏にある場合(認証圏 1)は、ログイン操作なしで接続できます(認証サーバの切り替え運用をしていて、認証サーバが切り替わった場合は、ログイン処理が発生します)。接続する JP1/AJS2 - SO Manager が異なる認証圏(認証圏 2)にある場合は、ログインの操作が必要です。

図 5-2 認証圏



注※1 セントラルインフォメーションマスター・ビューアー
 注※2 セントラルコンソール・ビューアー

一つの認証圏には、2 台の認証サーバを設置できます。2 台の認証サーバを設置することで、一方の認証サーバに接続できないときにも、予備の認証サーバに接続して JP1 ユーザーの認証を行えます。これによって、認証サーバの障害などによる業務の停止を防げます。通常時に使用する認証サーバを**プライマリー認証サーバ**、予備の認証サーバを**セカンダリー認証サーバ**と呼びます。なお、認証サーバを 2 台設置する場合は、プライマリー認証サーバとセカンダリー認証サーバに使用する JP1/Base のバージョンを統一する必要があります。

5.1.2 アクセス制御

JP1/IM - CM では、JP1 ユーザーごとに論理システムとリソースパックに対して、操作権限を与えることで、JP1/IM - View の操作を制御できます。

論理システムとリソースパックは、幾つかのグループに分けて保存し、管理することをお勧めします。このグループを **JP1 資源グループ** と呼びます。また、JP1 資源グループには、任意の名称を定義できます。例えば、資材部、人事部などの部署ごとに、「purchasingdep」や「personneldep」というような、部署を意味する用語を定義できます。

なお、必ずどれかの JP1 ユーザーに JP1 資源グループを定義することをお勧めします。JP1 資源グループを定義しなかった場合、アクセス制御の対象になりません。そのため、ほかの JP1 ユーザーからも論理システムやリソースパックを参照できたり、変更できたりします。

また、一つの JP1 ユーザーには、複数の JP1 資源グループを定義できます。例えば、一人の JP1 ユーザーに対して、総務部の JP1 資源グループでは業務管理者権限を持つユーザーとして、また別の営業部の JP1 資源グループでは業務管理者権限とインフラ管理者権限を持つユーザーとして定義できます。

JP1 ユーザーの操作権限を管理するのは、認証サーバです。ログイン時にはユーザー認証を行い、ログインユーザー (JP1 ユーザー) の操作権限情報を JP1/IM - CM に返し、その情報に従って JP1/IM - View 側で操作を制御します。

JP1 ユーザーの操作権限は、JP1 ユーザーを認証サーバに登録する際に設定します。JP1 ユーザーの操作権限を **JP1 権限レベル** と呼びます。JP1/IM - View を操作する際には、JP1 ユーザーに与えられた JP1 権限レベルによって操作できる範囲が制御されます。

JP1/IM - View にログインし、認証サーバから JP1 権限レベル情報を取得したあとに、JP1 ユーザーの権限レベルを変更したり、ユーザーを削除したりしても、ログオフするまではログイン時に取得した JP1 権限レベルの範囲で操作ができます。変更した JP1 ユーザーの情報は次のログイン時から有効となります。

設定できる JP1 権限レベルには、次の 3 種類があります。

- **JP1_CM_Admin**
システム管理者権限です。論理構成および物理構成に対するすべての操作ができます。
- **JP1_CM_Manager**
業務管理者権限です。論理構成に対する操作ができます。
- **JP1_CM_InfraManager**
インフラ管理者権限です。物理構成に対する操作ができます。

なお、JP1 権限レベルと JP1/IM - View での操作範囲との対応については、「付録 E 操作権限一覧」を参照してください。

論理システムの JP1 資源グループの設定値と、ログインユーザーの操作権限を表 5-1 に示します。また、リソースパックの JP1 資源グループの設定値と、ログインユーザーの操作権限を表 5-2 に示します。

論理システム配下の論理オブジェクトは、論理システムの JP1 資源グループの情報を引き継ぎます。また、ログインユーザーの JP1 資源グループと、論理システムまたはリソースパックの JP1 資源グループが異なる場合は、論理システムまたはリソースパックのアクセス権限はありません。

表 5-1 論理システムの JP1 資源グループの設定値とログインユーザーの操作権限

ログインユーザーの情報				論理システムの設定情報	
				JP1 資源グループ	
				GROUP1	なし
JP1 資源グループ (GROUP1) に対する 権限レベル	システム管理者権限 (JP1_CM_Admin)			○	○
	業務管理者権限 (JP1_CM_Manager)			○	○
	インフラ管理者権限 (JP1_CM_InfraManager)			▲	▲
	権限なし	JP1 資源グループ (GROUP1 以外) に対する権限レベル	システム管理者権限	○ ^{※1}	○
			業務管理者権限	×	○
インフラ管理者権限			×	▲	
なし			ログイン不可		

(凡例)

○: 次の操作ができます。

- 論理システムおよび配下の論理オブジェクトの新規作成, 削除, および参照 (検索)
- 論理システムのすべてのプロパティ情報の変更
- 論理システムとリソースパックの割り当て, および割り当ての解除
- 論理オブジェクトと物理リソースのマッピング定義, およびマッピングの解除

▲: 次の操作ができます。

- 論理システムおよび論理システム配下の論理オブジェクトの, すべてのプロパティ情報の参照 (検索)

×: 論理システムを操作できません。

注※1

システム管理者権限を持っているユーザーは, JP1 資源グループによるアクセス制御の対象外となるため, すべての JP1 資源グループに属するオブジェクトを新規作成, 変更, または削除できます。

表 5-2 リソースパックの JP1 資源グループの設定値とログインユーザーの操作権限

ログインユーザーの情報			リソースパックの設定情報		
			JP1 資源グループ		
			GROUP1	なし	
JP1 資源グループ(GROUP1)に対する権限レベル	システム管理者権限		○	○	
	業務管理者権限		▲	▲	
	インフラ管理者権限		○	○	
	権限なし	JP1 資源グループ(GROUP1 以外)に対する権限レベル	システム管理者権限	○*	○
			業務管理者権限	×	▲
インフラ管理者権限			×	○	
なし		ログイン不可			

(凡例)

○: 次の操作ができます。

- リソースパックの新規作成および削除
- リソースパックのすべてのプロパティ情報の変更
- リソースパックへの物理リソースの割り当て, 割り当て情報の変更, および割り当て解除
- 物理リソースの新規作成, 変更, および削除

▲: 次の操作ができます。

- リソースパックおよびリソースパック内の物理リソースの, すべてのプロパティ情報の参照
- 物理リソースの新規作成, 変更, および削除

×: 次の操作ができます。

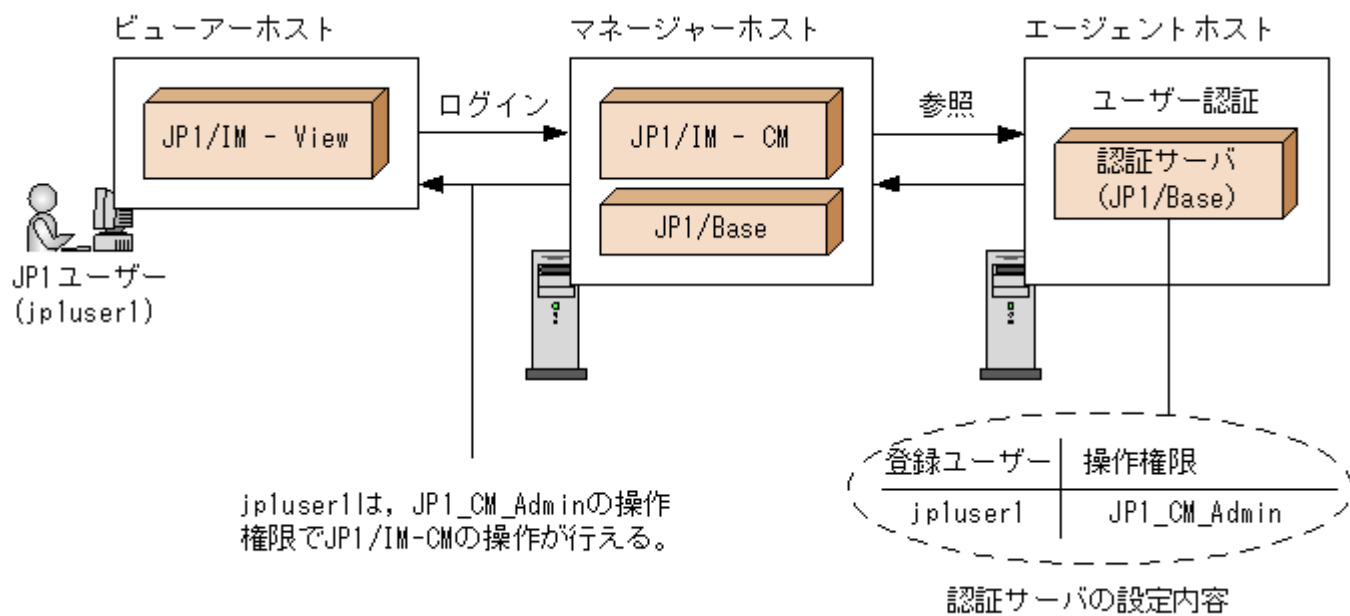
- 物理リソースの変更および削除

注※

システム管理者権限を持っているユーザーは, JP1 資源グループによるアクセス制御の対象外となるため, すべての JP1 資源グループに属するオブジェクトを新規作成, 変更, または削除できます。

次に JP1 ユーザーへの JP1 権限レベル付与例を示します。

図 5-3 JP1 ユーザーの JP1 権限レベル付与例



5.1.3 ユーザーマッピング

連携するプログラムから物理構成や論理構成の情報を収集する場合、連携するプログラムがインストールされているホスト上での OS ユーザーの権限が必要となります。JP1/IM - CM の情報収集コマンド (jcmgetinfo) は、JP1 ユーザーで実行されるため、JP1 ユーザーと OS ユーザーを対応づけておく必要があります。

この、JP1 ユーザーと OS ユーザーの対応づけを**ユーザーマッピング**といい、JP1/Base の機能によって制御しています。

情報収集の対象となるプログラムがインストールされているホストで、ユーザーマッピングの定義が必要です。ユーザーマッピングについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

JP1/AJS2 - SO と連携時のユーザーマッピング

JP1/AJS2 - SO のシナリオから JP1/IM - CM の情報検索機能を使用する場合、JP1/AJS2 - SO のシナリオの実行 OS ユーザーを JP1 ユーザーにマッピングしておく必要があります。OS ユーザーと JP1 ユーザーをマッピングするには、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス jcmgetumap, jcmmkumap, jcmumappass, および jcmrmumappass」(2. コマンド)を使用して JP1 ユーザーの認証を設定してください。